

## テーラーカラーにおける 折り山のデザインラインとダーツの関係について— 2

The Relation Between the Folding Line of Tailored Collar and Darts— 2

森田 裕子 YUKO MORITA  
吉川 玲子 REIKO KIKKAWA  
田原美津子 MITSUKO TAHARA

### I はじめに

最近のファッション・シーンを概観すると、昨年(1998)あたりから「新ミレニアム」をキーワードに、モードは新しい時代性を模索しつつ大きく動き出しているように捉えられる。世紀の移り変わりを見据えてデザイナー達は様々なヴィジョンを発表しているが、その中心にあるものは、今世紀を振り返り過去を現代と融合させ、新しい未来を生み出そうというものである。

この21世紀への時代の流れの中で、変化しつつ生き続けていくであろうと思われるものの一つに、テーラード・スーツがあると推察される。

婦人服におけるテーラード・スーツの起源は、1880年代後半、イギリスのテーラー「レドファーン」などによる一部の富裕な人々の散歩服から始まり、その背景には産業革命・婦権拡張運動・国民教育やスポーツの普及など様々な社会情勢があった。1900年以降、徐々に市民間にも用いられるようになったが、第一次世界大戦という状況下で婦人が労働に加わる必然性からテーラード・スーツは、職業を持つ女性の服として定着した。

日本でもほぼ同じ経路をたどり、鹿鳴館時代の婦人たちの散歩服だったのが大正末から昭和初期にかけて少しずつ職業婦人(女子車掌、高級事務員、タイピストなど)の間で広がり、第二次世界大戦により一般化した<sup>(1)</sup>。

以後社会情勢はめまぐるしく変わり、もはや女性の社会進出は当然の事柄として受け入れられている。更にテクノロジーの面でも発展は著しく、化学繊維など新素材の開発も進んでいる。

当初、機能性・実用性を求めて女性が入り入れたテー

ラード・スーツは、現代に至ってもっとしなやかで女性らしい独自のデザインを持つまでになった。

先行のテーラード・スーツに関する研究論文は、多くは服装史に関わる考察<sup>(2)</sup>、または縫製技術の研究<sup>(3)</sup>などで、パターンに関する研究<sup>(4)</sup>は少ない。

私達は「テーラーカラーにおける折り山のデザインラインとダーツの関係について」(『杉野女子大学・杉野女子大学短期大学部紀要』Vol.35 1998)において、女性特有のデザインとしてテーラーカラーの折り山のデザインラインに注目し、本来はほぼ直線であるものがパターン上でダーツをとることによってカーブを描き、多様なイメージを演出するものであると研究考察した。<sup>(5)</sup>

さらにテーラード・スーツにおいて、メンズではみられない女性特有のデザインを探してみると、テーラーカラーがネックポイントから離れたデザインの存在に気がされる。そこで本稿ではこのレディス独自のデザインとしてのカラーがネックポイントから離れていくとデザインラインはどう変化するか、またそれにダーツが加わるとどうなるかを比較検討し、かつてメンズ固有のものであったテーラード・スーツにおける女性化のためのデザインへの変化の方法を考察するものである。

今回取り上げた「ネックポイントから離れたカラー」は、本来クラシックなスタイルであるが、ここにきて新しい素材やシルエットによって今日的に消化され登場している。

パリ・ミラノ・ニューヨークのオートクチュール及びブレタボルテコレクションの中から、その例を抜粋し以下にあげてみた。(写真—1～8)

1. 折り先が低いもの

写真-1

'99 S/S  
THIERRY MUGLER

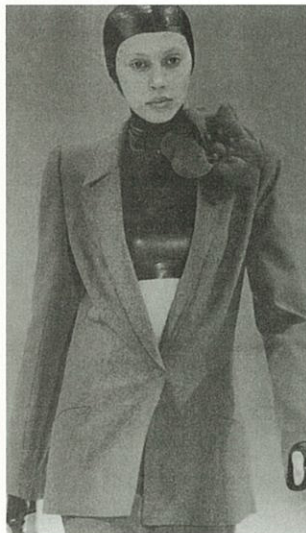


写真-2

'99 S/S  
DOMINIQUE SIROP



2. デザインラインが上部でカーブしているもの

写真-3

'98~'99 A/W  
CHANEL

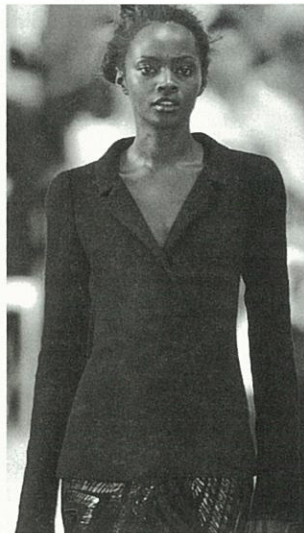


写真-4

'98 S/S  
CHANEL



3. カラーが浮いた感じのもの

写真-5

'98~'99 A/W  
PACO RABANNE



写真-6

'98~'99 A/W  
MARC JACOBS



4. 極端に首から離れたカラー

写真-7

'99 S/S  
CHANEL



写真-8

'98 S/S  
CHANEL





## Ⅱ ネックポイントからの距離の違いによる 折り山のデザインラインの形状比較

### 1. 実験に先立って

今回の実験を行うに当たって、昨年の結果を再検証した。

すなわち、「テーラーカラーにおける折り山のデザインラインとダーツの関係について」で考察した「Ⅳ 実験〔3〕結果③折り山のデザインラインの立体的形状の

比較検討」<sup>(6)</sup>における測定値をグラフ化するだけでなく、より視覚的な表現方法を模索した結果、ボディ上で折り返る折り山のデザインラインの高さを、側面から捉えた図で表現してみた。

### 【デザイン1】

グラフで示される高さの起伏をボディ上に置き直すと、形状をより实际的に観察できる。基本型及びDのフラットな状態、ダーツをとった各分類ごとのさまざまな起き上がりの状態が大変よくわかる。(図-1~5)

図-1 基本型・D

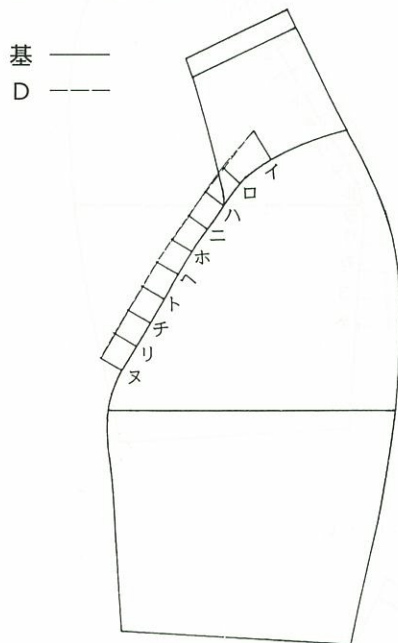


図-2 A・A'

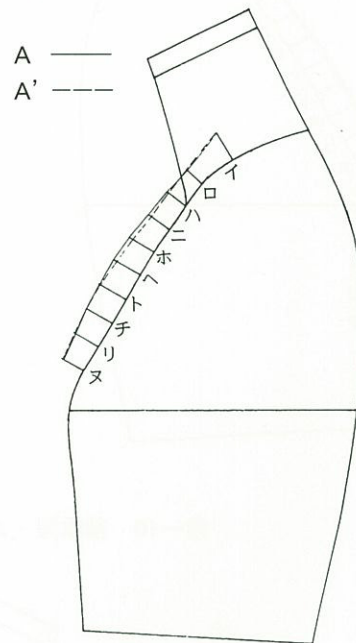


図-3 B・B'

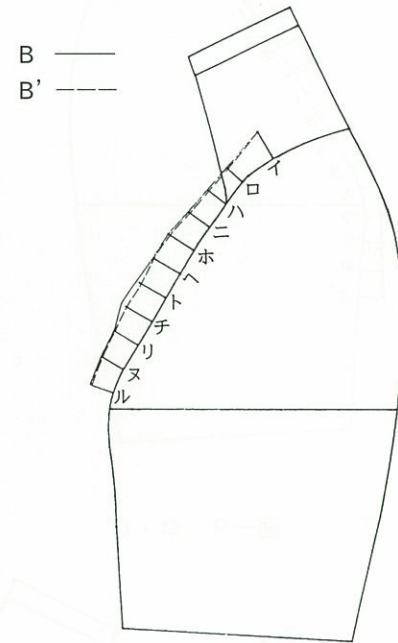


図-4 C・C'

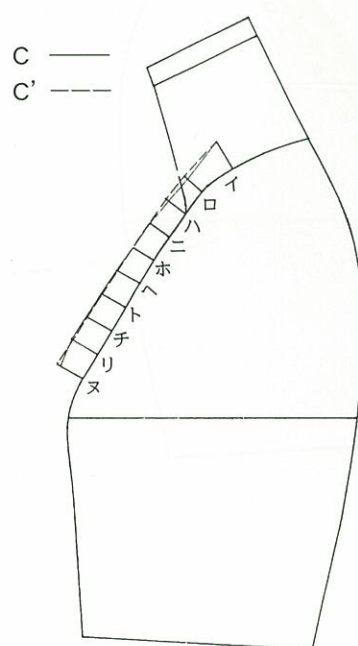
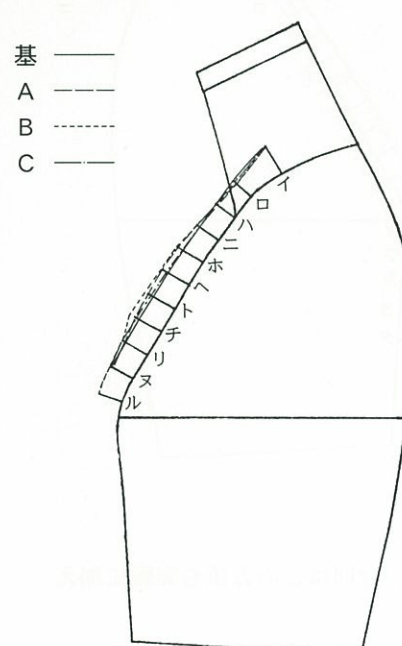


図-5 基本型・A・B・C



## 【デザイン2】

折り山のデザインラインがバストラインを通過する時、胸の高さととられてボディとの間隔が狭くなっている状態がわかる。(図-6～10)

図-6 基本型・D

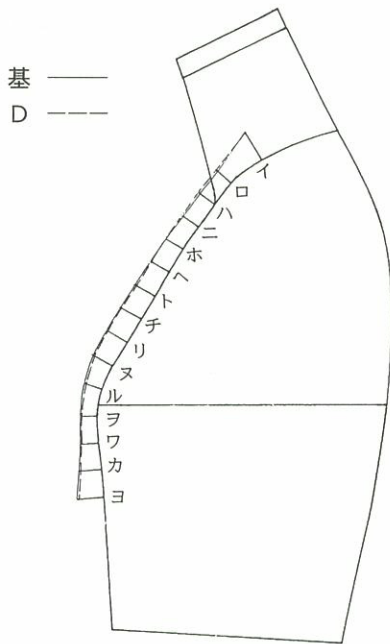


図-7 A・A'

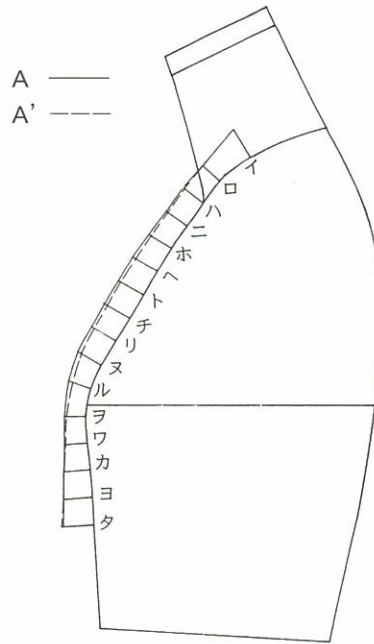


図-8 B・B'

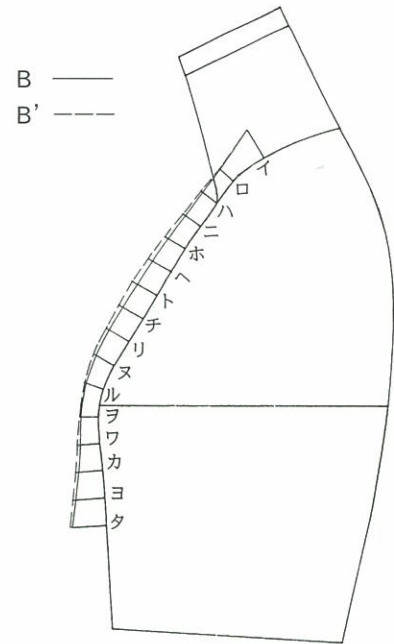


図-9 C・C'

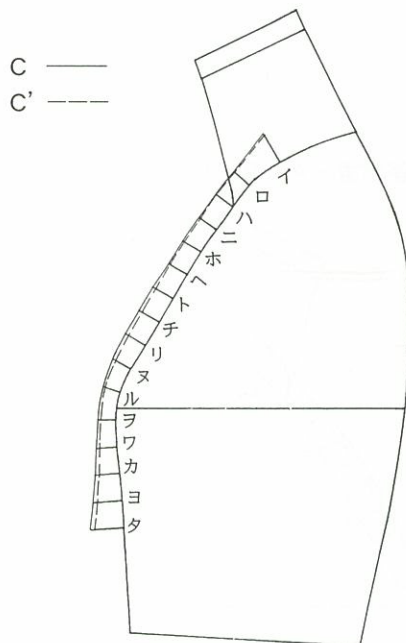
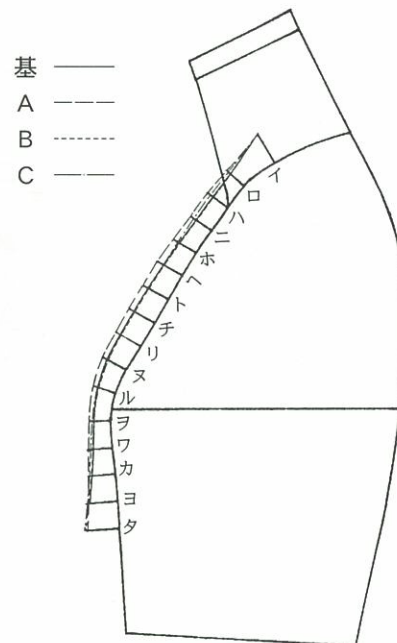


図-10 基本型・A・B・C



以上の結果を踏まえて、今回はこの方法も実験に加えることにした。



## 2. 実験

試料を以下の3タイプに分けた。

【基本デザイン】 衿付け位置がN.P.（以下ネックポイントをN.P.とする）にあるもの

【デザインN-1】 衿付け位置がN.P.から1cm離れているもの

【デザインN-3】 衿付け位置がN.P.から3cm離れているもの

試料にはカットクロスを使用した。

・測定値

表-1

	素 材	糸の太さ (tex)	密 度 (本/cm)	質 量 (g/m)
経	綿 100%	29	20	130.9
緯	綿 100%	31	20	

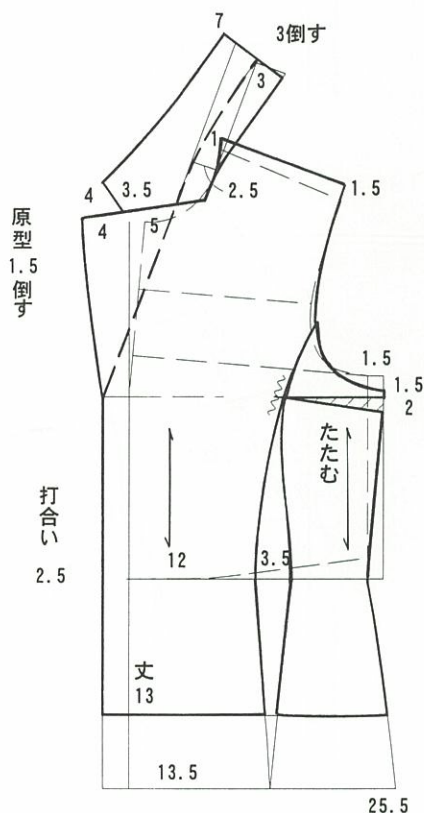
ボディは七彩Fair Lady 9ARを使用した。

実験方法は、前回に倣った。但し、今回の研究目的に沿うよう部分的に変更した。以下、変更箇所を中心に記す。

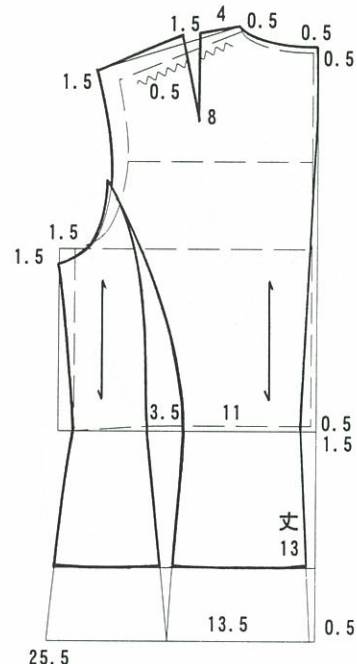
製図-1

基本デザイン

基本型パターン



ゆるみ  
B-14  
H-12



## 【基本デザイン】

### 〔1〕 試料作成

#### ①基本型パターンの作成

今回の研究対象となるカラーと、身頃との間にデザインの調和を図るため、パターンに変更を加えた。（製図-1）

#### 変更箇所

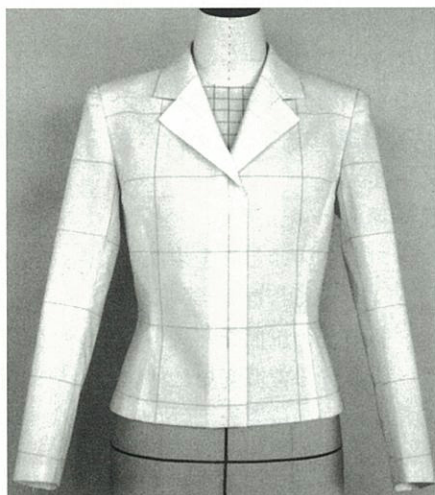
- ・バストのゆるみを少なくした。B-16→B-14
- ・丈を短くした。W~20→W~13
- ・折り先の位置をバストラインに上げた。
- ・折り先の位置変更に伴い、カラー付け線（ラペルとの接ぎ線）の位置を上げた。

## ②基本型トワルの作成（写真－９）

写真－９

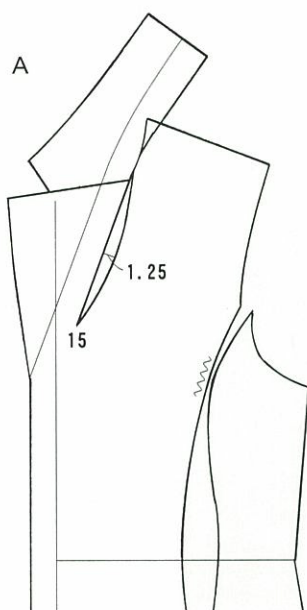
基本デザイン

基本型トワル



製図－２

基本デザイン A



## ③分類別パターン及びトワルの作成

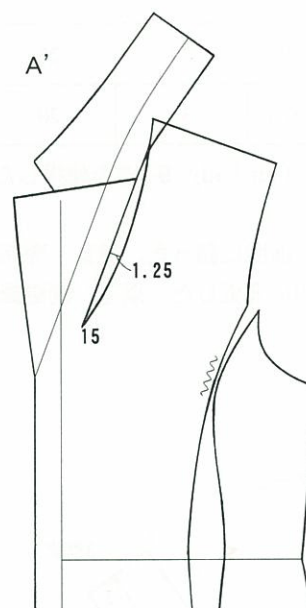
・①の基本型パターンをベースにして、前回の分類に従い、各パターンを作成した（製図－２～７）。但しD（あご下ダーツ）は、前回の結果からデザインラインには影響を及ぼさないことがわかったので、割愛した。

各パターンのダーツ分量は、前回の実験と同率にし、1.25cmとした。

・②の要領でトワルを作成した。但し、袖は省いた。

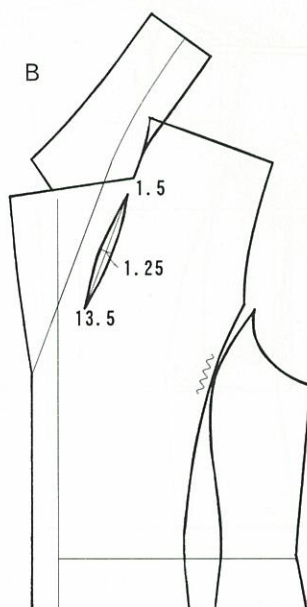
製図－３

基本デザイン A'



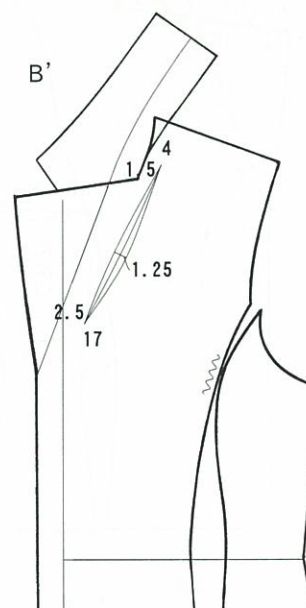
製図－４

基本デザイン B



製図－５

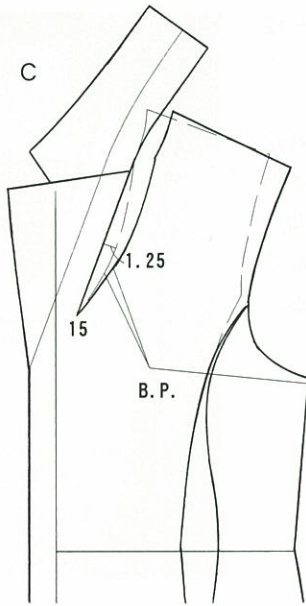
基本デザイン B'





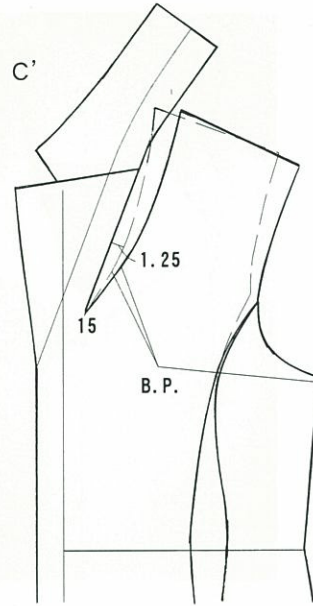
製図-6

基本デザイン C



製図-7

基本デザイン C'



## 〔2〕方法

### ①写真撮影と視覚的形狀観察

前回と同様に行なった。

### ②折り山のデザインラインの形状の分類別比較

ボディ前面に貼り付けた目盛り・イの位置で、首から折り山までの距離を測定し、その値を図形化の際に取り入れた。

### ③折り山のデザインラインの立体的形状の分類別比較

測定値を基にグラフ化し、併せて折り山のデザインラインのボディからの起き上がりを図形化した。

#### 〈測定方法〉

測定は5回行い（回ごとに着せ直す）、最高値と最低値を除いて平均値を出した。

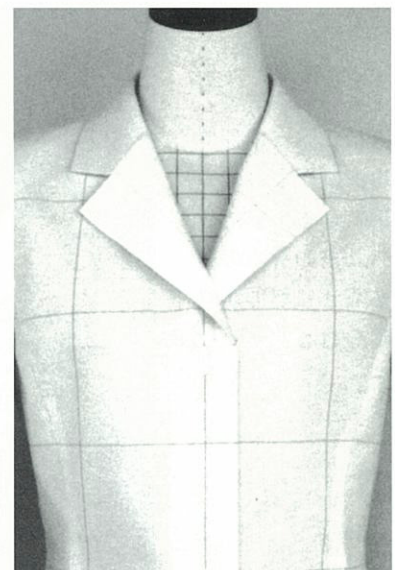
## 〔3〕結果

### ①折り山のデザインラインの視覚的形狀観察

写真-10

#### 基本型

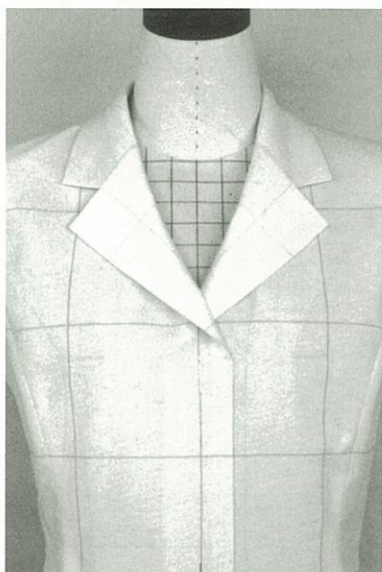
首回りにわずかなゆとりを持ちながら回り込み、折り先まではほぼ直線となっている。



写真一11

A

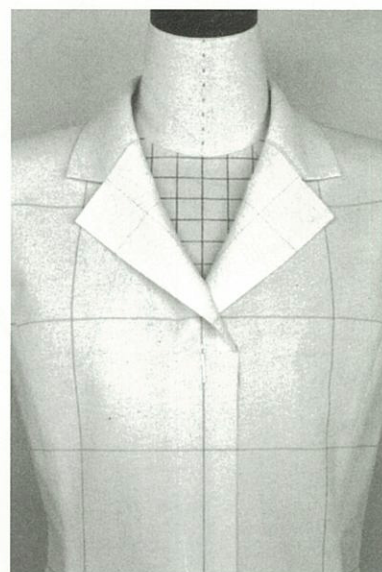
首回りのゆとりは基本型と同じ程度で、折り先へ向かうラインの中程から大きく回り込むような、下半分に偏ったカーブとなっている。



写真一12

A'

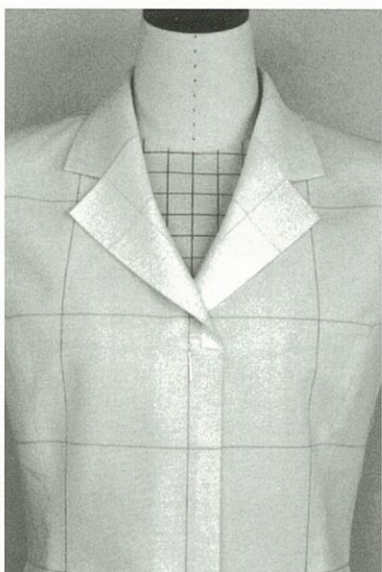
首回りのゆとりがAより多く、そのまま折り先へ向かって全体にゆるくカーブしている。



写真一13

B

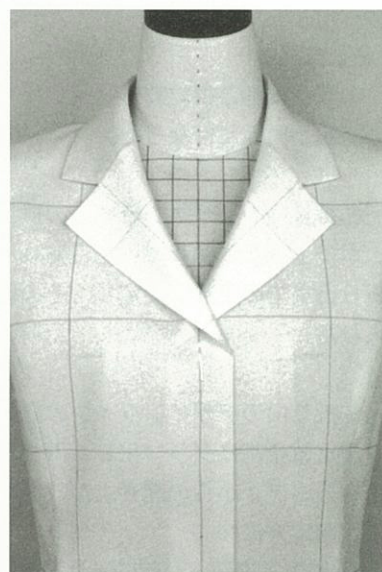
Aとかなり似たラインだが、ロ～ハのあたりがAより狭く印象は異なり、つまった感じがする。



写真一14

B'

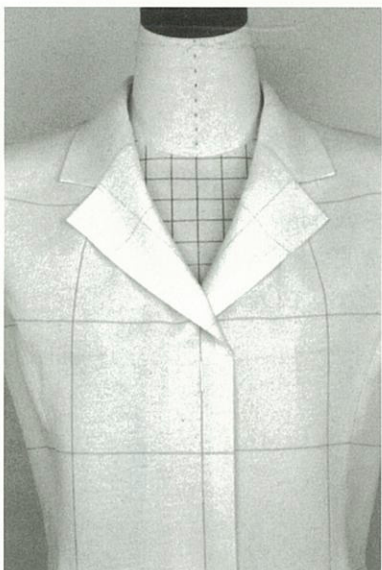
首回りを過ぎたあたりから中程まで直線的だが、その後大きくカーブを描いている。下半分はA'より広がっているのに、印象は窮屈な感じがする。



写真一15

C

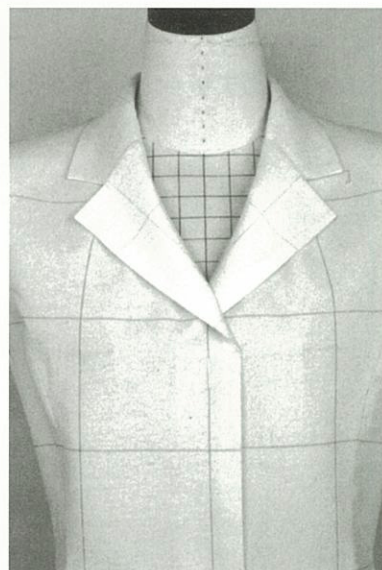
Aに比べ、中程でカーブがより強く出ている。またラベル下の身頃の落ち着きに無理が感じられる。



写真一16

C'

首回りから続くカーブ全体がこれまでのどれよりもゆったりと広がった印象を与える。またカラーが浮いた感じを受けるCと同様、ラベル下の身頃の落ち着きに無理が感じられる。





## ②折り山のデザインラインの分類別比較検討

### ・測定値

表ー2 [基本デザイン] 首から折り山までの距離

(単位cm)

基本デー基	基本デーA	基本デーA'	基本デーB	基本デーB'	基本デーC	基本デーC'
0.62	0.68	0.83	0.68	0.63	0.53	1.03

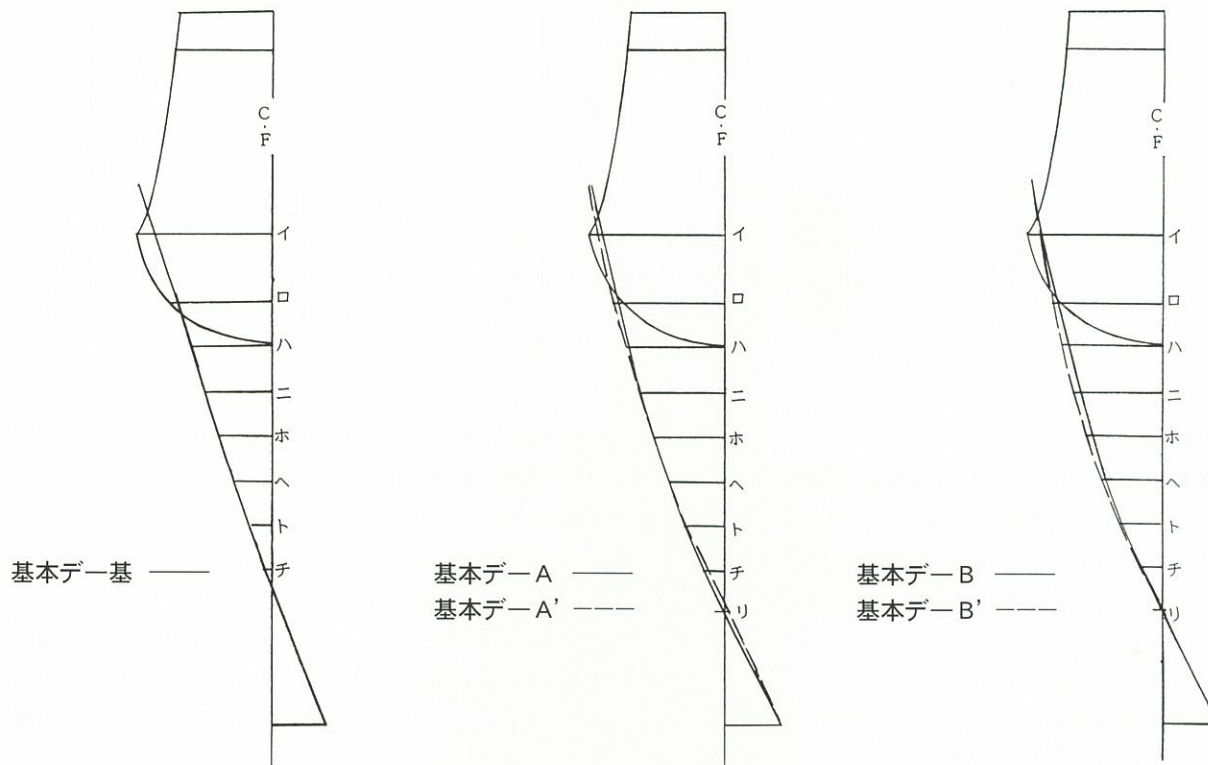
※表中の〈基本デー基〉は基本デザインー基本型を表す。

他も同様の表示とする。

図ー11 基本デー基

図ー12 基本デーA・基本デーA'

図ー13 基本デーB・基本デーB'



基本型 (図ー11)

ほとんど直線であるが、ロでわずかに内側に曲がる。

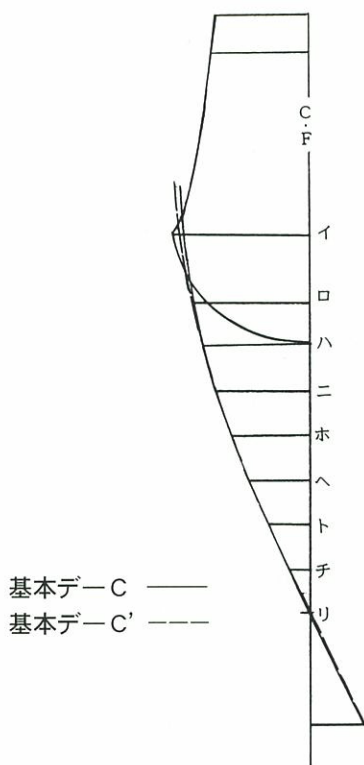
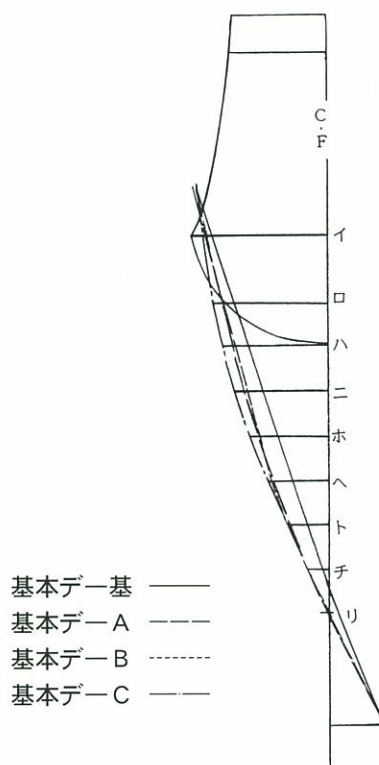
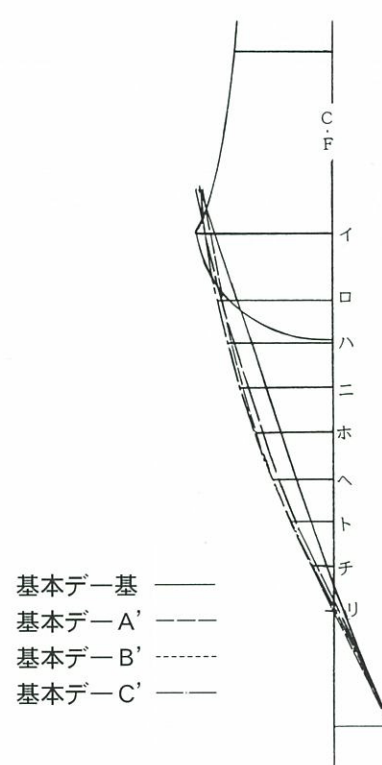
A・A' (図ー12)

ホ・ヘ付近でラインが入れ替わっている。Aは下半分にカーブの比重が大きく偏っている。A'はイ～ニで外に膨らみ、ニ～トでだいたいAと重なる。ト以降は内側に入ってくるが、自然なつながりのラインである。

B・B' (図ー13)

イ付近及びチ以降はほぼ同じラインで、その間のラインに差がある。B'がより大きく外側に張り出している。

図-14 基本デーC・基本デーC'

図-15 基本デー基・基本デーA  
基本デーB・基本デーC図-16 基本デー基・基本デーA'  
基本デーB'・基本デーC'

## C・C' (図-14)

Cは首付近から二付近までと、ト以降が直線に近く、その間のC'とラインが重なるホ・ヘでカーブしている。C'は首回りからホ付近までがCより外を通りゆったりカーブしているが、チ以降は直線的なラインに変わってくる。

## 基本型・A・B・C (図-15)

ほぼ直線の基本型に対し、他の3本はカーブしている。A・Bはほぼ一致したラインをとっている。基本型と一番カーブの離れている箇所は、A・Bではニ・ホ・ヘで0.8cm、Cではヘで1.3cmである。

左右のデザインラインの交差位置は、基本型はチか

ら0.7cm下がった位置であり、A・B・Cはほぼ同じ位置で基本型より1.2cm低い。

## 基本型・A'・B'・C' (図-16)

A'・B'・C'のカーブではB'に特徴がある。A'・C'は基本型から一番離れている位置がニ・ホで、A'は0.9cm、C'は1.2cmと距離は違うが、カーブラインの形態は似ている。B'は首付近がより狭く、ホで一番離れ(1.2cm)、ト以降はA'・C'よりも外側に広がる。

左右のデザインラインの交差位置は、A'・C'共に基本型より0.8cm下で、B'は1.2cm下である。

## ③折り山のデザインラインの立体的形状の比較検討

## ・測定値

表-3 [基本デザイン] ボディから折り山まで高さの測定値

(単位cm)

	基本デー基	基本デーA	基本デーA'	基本デーB	基本デーB'	基本デーC	基本デーC'
イ	2.20	2.15	2.03	2.38	2.38	2.18	2.23
ロ	1.75	1.73	1.85	2.00	2.17	1.80	2.10
ハ	1.67	1.88	1.97	2.15	2.42	2.13	2.27
ニ	1.73	2.07	2.07	2.28	2.53	2.45	2.32
ホ	1.75	2.33	2.23	2.47	2.68	2.78	2.43
ヘ	1.83	2.35	2.32	2.58	2.75	2.75	2.47
ト	2.00	2.32	2.28	2.50	2.63	2.70	2.47
チ	2.15	2.28	2.18	2.30	2.48	2.53	2.47
リ	2.17	2.07	1.95	1.98	2.23	2.28	2.18



・折り山のデザインラインの起伏の推移

基本型（グラフー1）

ハがもっとも低く、徐々にリに向かって緩やかな上昇線を描く。

A・A'（グラフー2）

共に口がもっとも低い。口からのAの上昇角度は大きく、ピークのホに向かって。A'はAに比べて高低差が緩やかである。

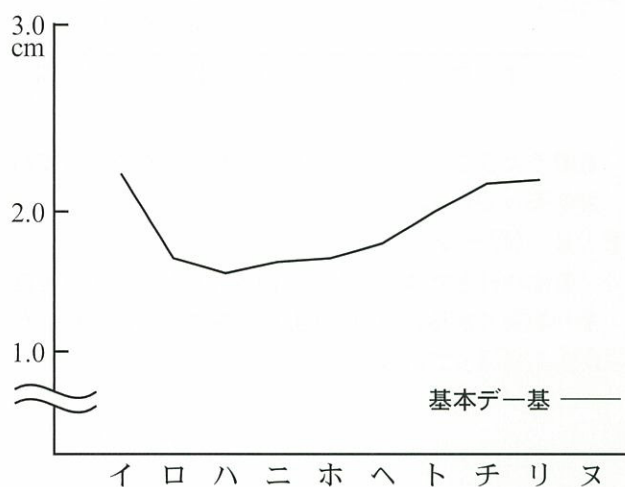
B・B'（グラフー3）

口以降の値は、B'の方が高い（平均0.2cm）が、B・B'ともだいたい同じラインを形成している。

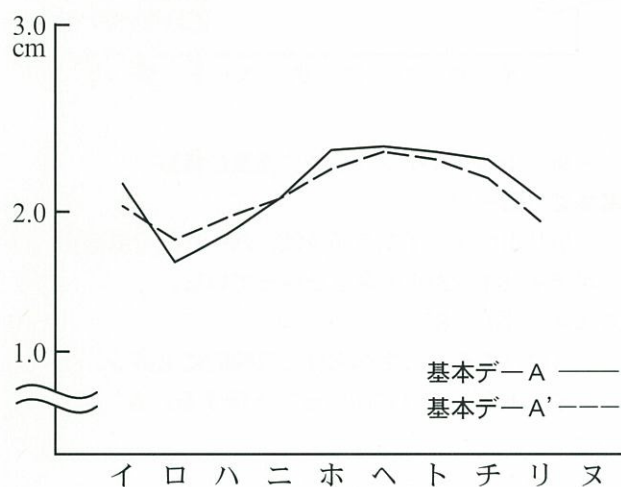
C・C'（グラフー4）

違いが大きい。Cの高低差の激しさ（口～ホ間0.98cm）に対し、C'はきわめてなだらか（口～ヘト間0.37cm）で、ピーク位置が拡散している。

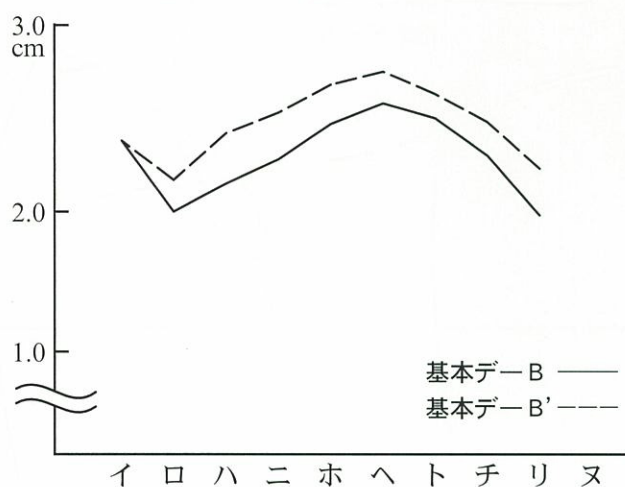
グラフー1 基本デー基



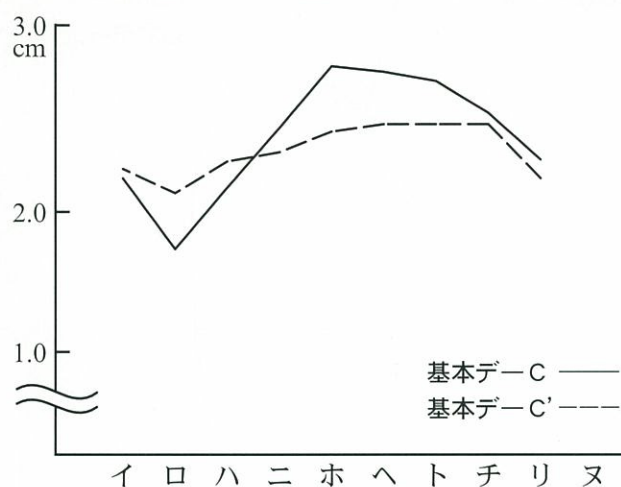
グラフー2 基本デーA・基本デーA'



グラフー3 基本デーB・基本デーB'



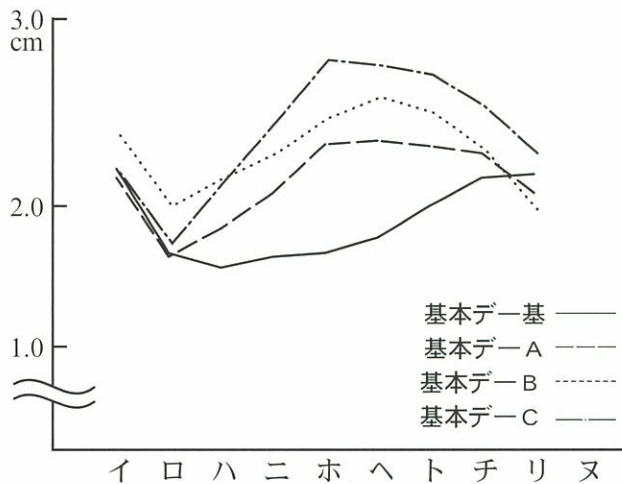
グラフー4 基本デーC・基本デーC'



基本型・A・B・C（グラフー5）

基本型のラインとA・B・Cのラインの間には形態の違いがある。緩やかな上昇の末、最終のりでピークとなる基本型に対し、A・B・Cはピーク位置がホ又はヘ付近ではっきりと高さをあらわして、しかもそれぞれが異なった動きになっている。

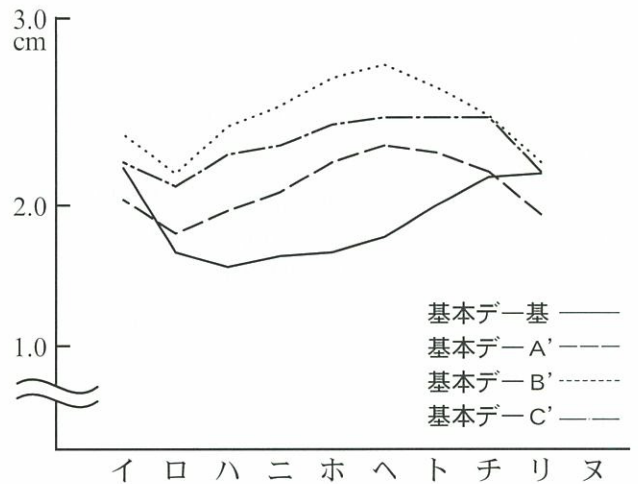
グラフー5 基本デー基・基本デーA・基本デーB・基本デーC



基本型・A'・B'・C'（グラフー6）

A'・B'・C'はグラフ線の高さは違うが、それぞれのラインが持つ傾向は似ている。低い順からA'、C'、B'となっており、ピーク位置はヘ付近で、A・B・Cに較べて落ち着いた立ち上がり方をしている。

グラフー6 基本デー基・基本デーA'・基本デーB'・基本デーC'



・折り山のデザインラインの起伏の推移  
基本型（図ー17）

折り山のデザインラインは、ハ〜チ間でほぼ直線でボディラインからの高さを保っている。

A・A'（図ー18）

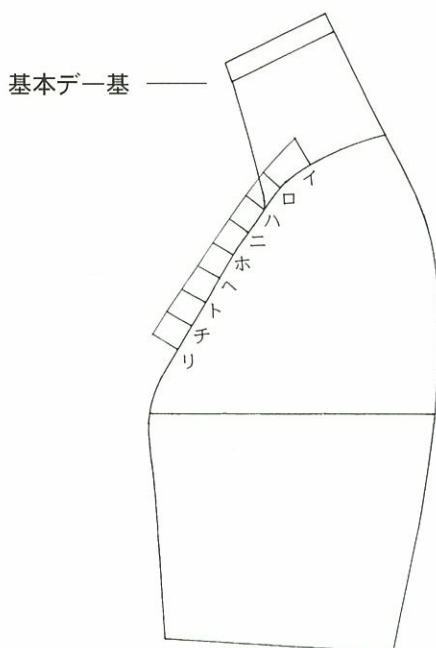
Aはハで低く、ホへ向けて直線的に上昇し、そこをポイントとしてリに向かって下降する。A'はAの間

を縫うようにして、丸みを持った穏やかなラインで高さを保っている。

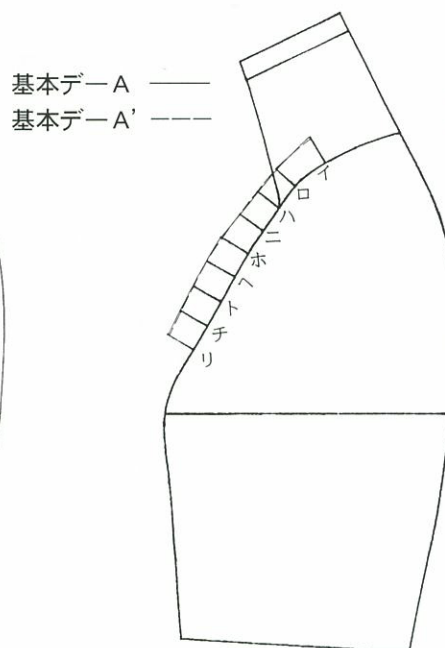
B・B'（図ー19）

Bはヘ付近では高さを多少押さえられ、ヘ・ト付近で一番高くなる。B'はBより全体に高く、なだらかな丸みを保っている。

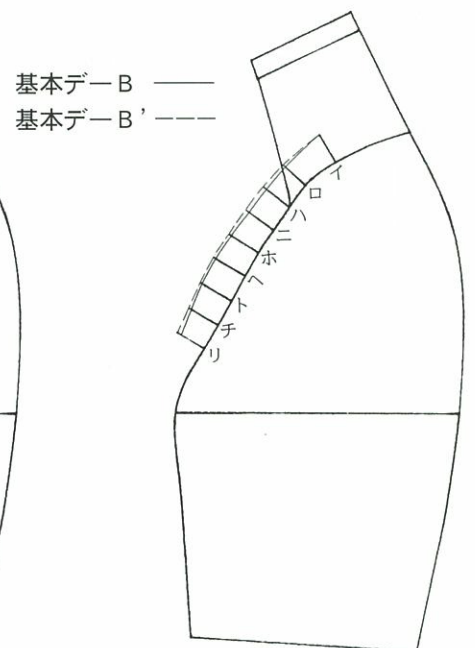
図ー17 基本デー基



図ー18 基本デーA・基本デーA'



図ー19 基本デーB・基本デーB'





# C・C' (図-20)

Cは口が低く、ホに向かってぐんと高く上がり、その後も高さを保つ。C'はCのような起伏はなく、自然なカーブラインで高さを保っている。

## 基本型・A・B・C (図-21)

基本型の直線的なラインに比べ、A・B・Cはホ・ヘ付近で高く起きあがっている。A・Cはイ・ロの高

さでは基本型とほとんど変わらない。Bのイ・ロは少し高いがそれ以降のラインの動きはA・B・Cとも下部(ホ・ヘ・ト)に高さの比重が集中している。特にCは急激な上昇を見せる。

## 基本型・A'・B'・C' (図-22)

A'・B'・C'共、全体に穏やかなカーブを形成している。

図-20 基本デーC・基本デーC'

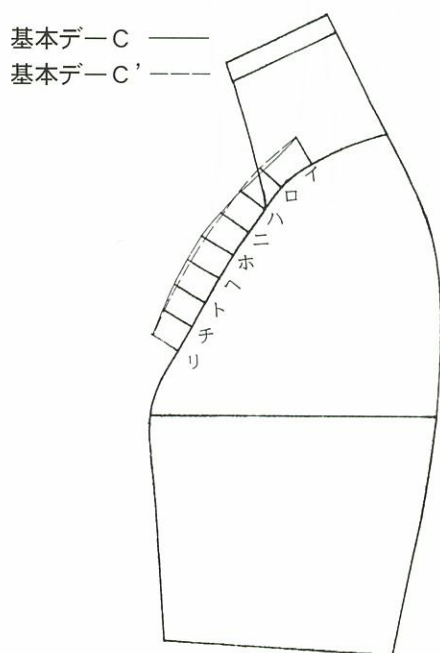


図-21 基本デー基・基本デーA  
基本デーB・基本デーC

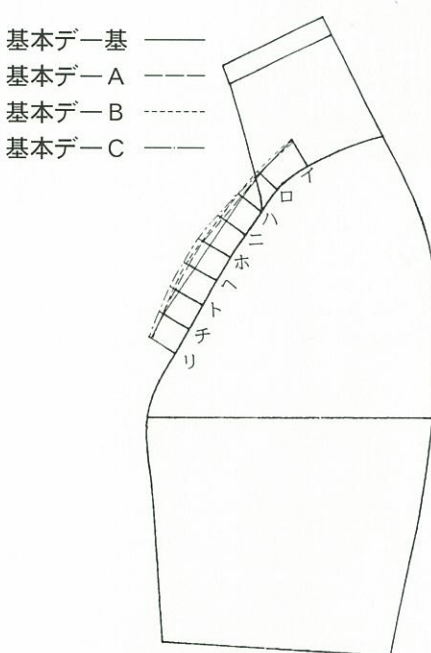
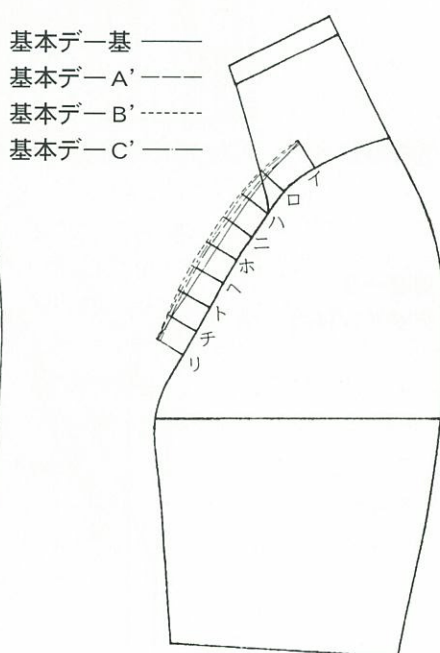


図-22 基本デー基・基本デーA'  
基本デーB'・基本デーC'



## 【デザインN-1】

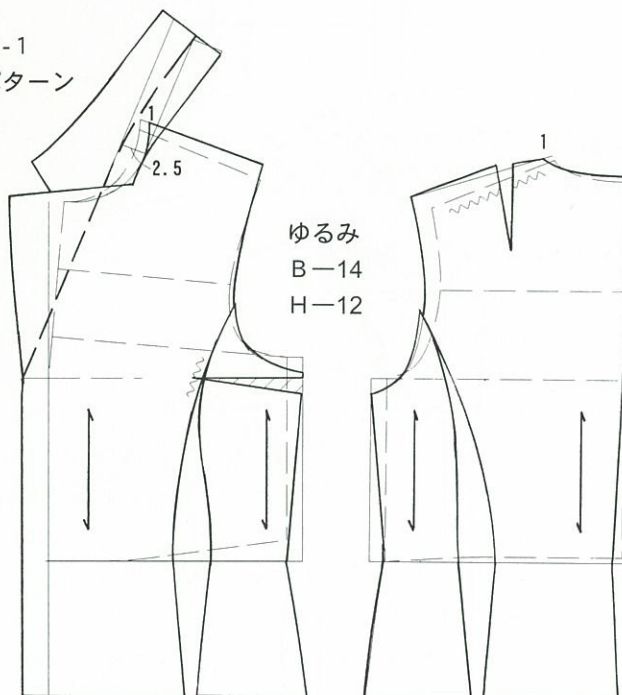
基本デザインにおいての実験で、A・B・CとA'・B'・C'の結果を比較し、より自然な形状をあらわすグループは後者であると思われる。以後の実験はA・B・Cを省き、基本型パターンとA'・B'・C'の試料で行うことにした。

### 〔1〕試料作成

#### ①基本型パターン (製図-8)

原型のN.P.から1cm離してネックラインをとり、テーラーカラーを製図した。ラペルと衿先の形は基本デザインと同形にした。

製図-8  
デザインN-1  
基本型パターン



②基本型トワルの作成（写真－17）

写真－17

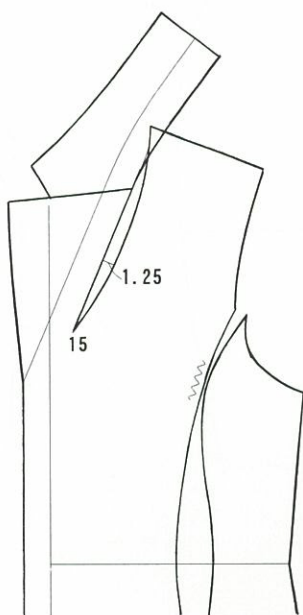
デザインN-1  
基本型トワル



③分類別パターン及びトワルの作成（製図－9～11）

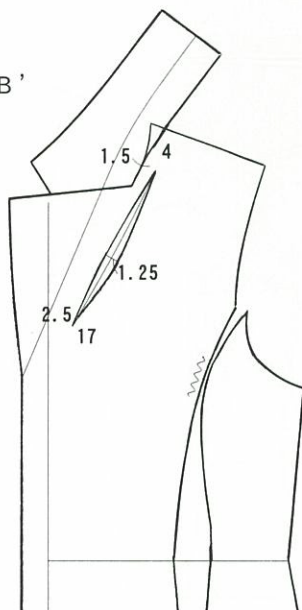
製図－9

デザインN-1 A'



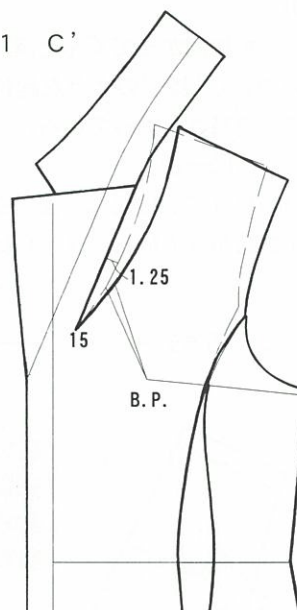
製図－10

デザインN-1 B'



製図－11

デザインN-1 C'



〔2〕方法

①、②、③を基本デザインと同じ方法で行なった。

〔3〕結果

①折り山のデザインラインの視覚的形狀観察

写真－18

基本型

折り山は首から離れる。首回りからカラーとラペルの接ぎ位置付近で若干内側へ入り、それ以降はほぼ直線で折り先へ向かう。

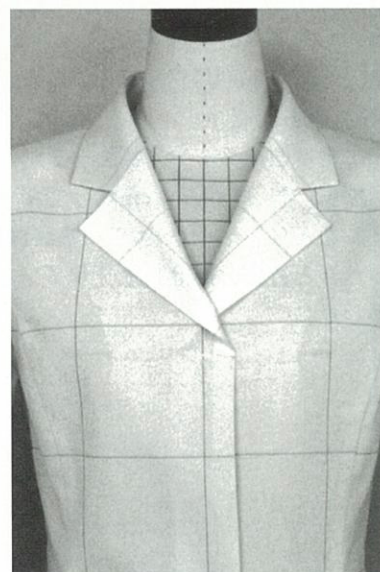


写真-19

A'

首回りで大きくカーブを描き、そのまま自然なつながりで折り先へ向かう。ゆったり、ふっくらとした印象を与える。

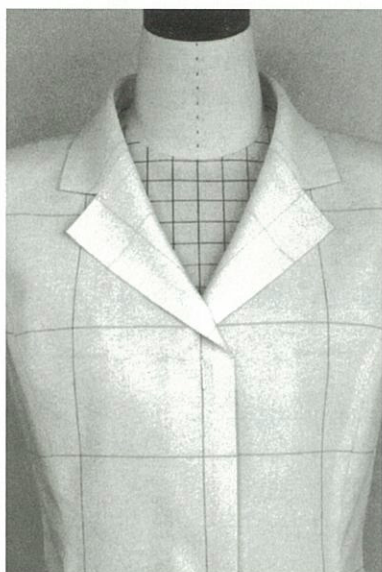


写真-20

B'

下部はA'とほぼ変わらないが、首回り部分がA'より首に近づいている。印象はしまった感じがする。

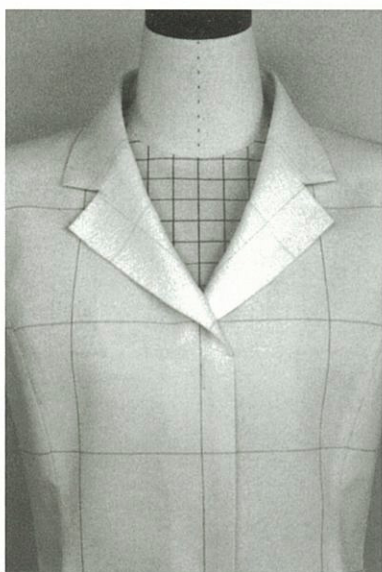
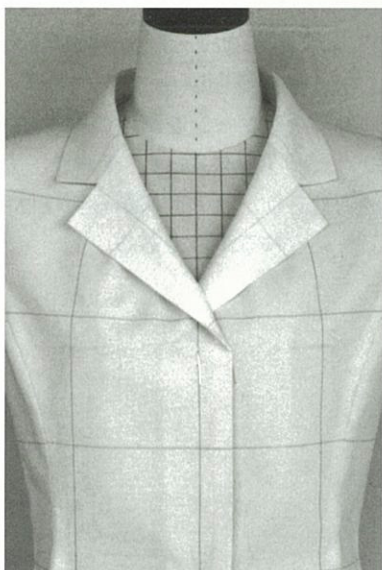


写真-21

C'

A'と大体同じ形であるが、カラーとラベルの接ぎ位置付近でよりゆったりしたカーブを描く。ラベル下の身頃の落ち着きに無理が感じられる。



## ②折り山のデザインラインの分類別比較検討

・測定値

表-4 [デザインN-1] 首から折り山までの距離

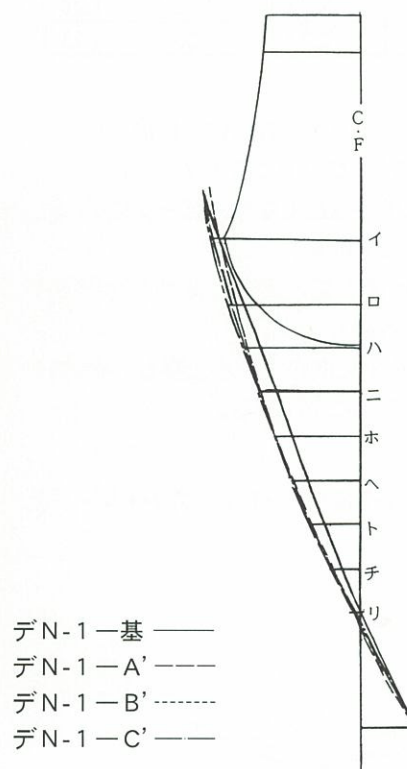
(単位cm)

デN-1 基	デN-1 A'	デN-1 B'	デN-1 C'
1.60	1.63	1.47	1.63

※表中の〈デN-1 基〉はデザインN-1—基本型を表す。

他も同様の表示とする。

図-23 デN-1—基・デN-1—A'・デN-1—B'・デN-1—C'



基本型・A'・B'・C' (図-23)

基本型はほぼ直線であるが、ロ・ハでわずかに内側へ曲がっている。

A'・B'・C'は、イ～ハ間ではB'・A'・C'の順に首から離れているが、ニ～リ間ではほぼ同じ位置で同じカーブを描いている。

左右の折り山のデザインラインの交差位置は、基本型がリ、A'・B'が基本型より0.5cm下、C'は1.0cm下である。



③折り山のデザインラインの立体的形状の比較検討  
・測定値

表ー5 【デザインN-1】 ボディから折り山までの高さの測定値  
(単位:cm)

	デN-1 基	デN-1 A'	デN-1 B'	デN-1 C'
イ	2.33	2.28	2.22	2.18
ロ	1.88	1.97	1.90	1.88
ハ	1.85	1.97	1.93	1.88
ニ	1.78	1.98	2.17	1.82
ホ	1.88	2.10	2.48	1.97
ヘ	2.03	2.25	2.53	2.13
ト	2.13	2.35	2.50	2.22
チ	2.20	2.37	2.42	2.28
リ	2.10	2.22	2.20	2.13

・折り山のデザインラインの起伏の推移

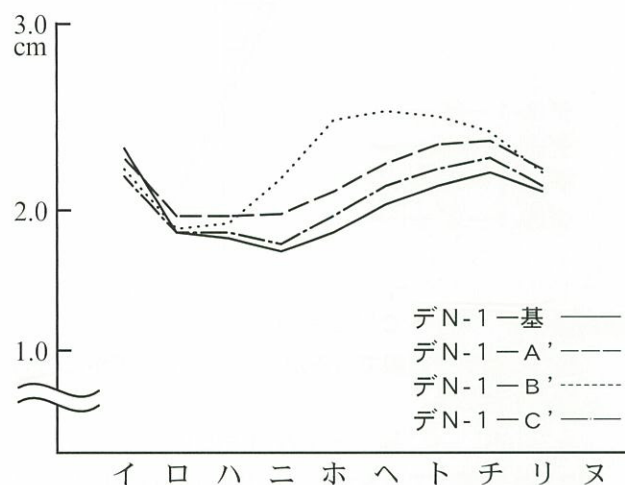
基本型・A'・B'・C' (グラフー7)

基本型はニで最低値になり、ピークのチへ向かって緩やかに上昇していく。

A'・C'は基本型とよく似たラインをたどるが、A'の方がやや高い。

B'はハからホに向かって急上昇し、その後高さを保ちながら緩やかに下降する。

グラフー7 デN-1基・デN-1A'・デN-1B'・デN-1C'



・折り山のデザインラインの起伏の推移

デザインN-1では、ボディ上の測定場所が基本デザインとは少しずれる。ずれた位置を図の中に破線でしるし、そこから数値をとった。

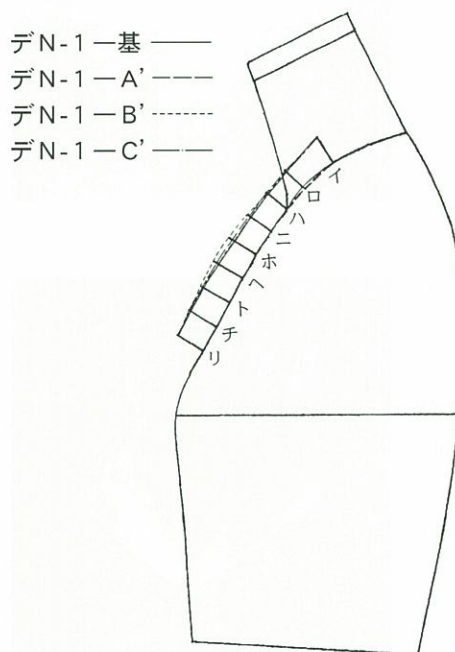
基本型・A'・B'・C' (図ー24)

基本型はハ～ヘ間は直線で、少しずつボディから離れ、ト以降でラインに若干の膨らみをもたせてカーブを描く。

A'・B'・C' 共、上部のイ・ロ・ハ及び下部のりは、基本型とほぼ同じ高さと言ってよい。中間部ではC'は基本型に非常に近く、A'はやや高くなる。

B'はラインの起き上がりが、ホ・ヘを中心にはつきりとあらわれる。

図ー24 デN-1ー基・デN-1ーA'・デN-1ーB'・デN-1ーC'



【デザインN-3】

前回、他方式のパターン例を調査した折り、A～Dの分類の他に折り山線の奥でラベルを切り替える方法を使ったパターンがみられた (文化式に多かった)。『杉野女子大学・杉野女子大学短期大学部紀要』Vol.35 p.11 (1998) 参照。そこでデザインN-3においては、切り替えたパターンを試料の中に加え、形状を比較してみた。デザインN-3は、テーラーカラーとしては特殊な部類であり、衿の形状から切り替えを必要とするデザインも見られるからである。

〔1〕 試料作成

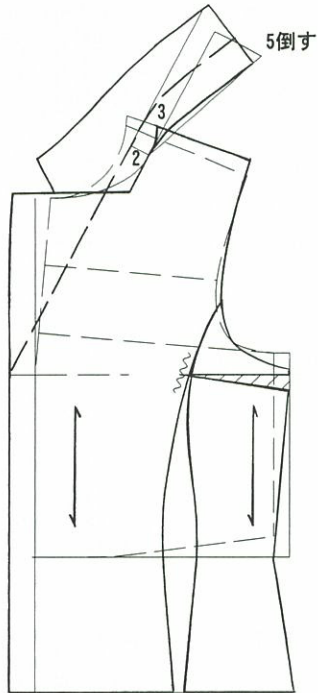
①基本型パターン（製図－12）

原型のN.P.から3cm離してネックラインをとり、  
テーラーカラーを製図した。ラベルと衿先の形は基本デ  
ザインと同形にした。

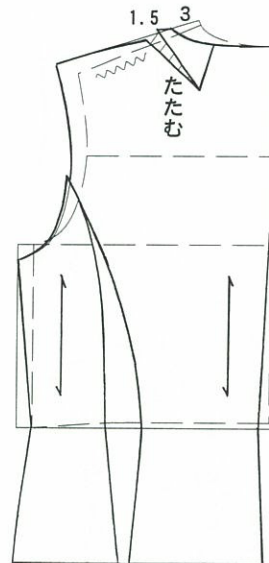
製図－12

デザインN-3

基本型パターン



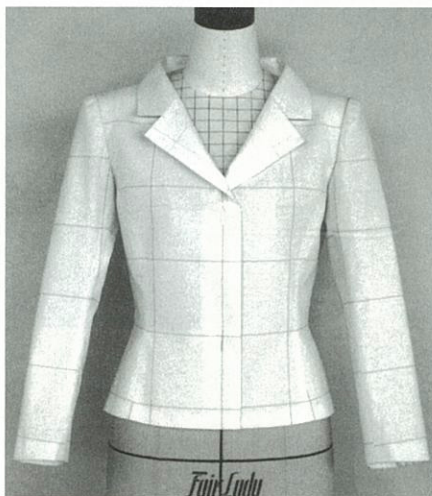
ゆるみ  
B-14  
H-12



②基本型トワルの作成（写真－22）

写真－22

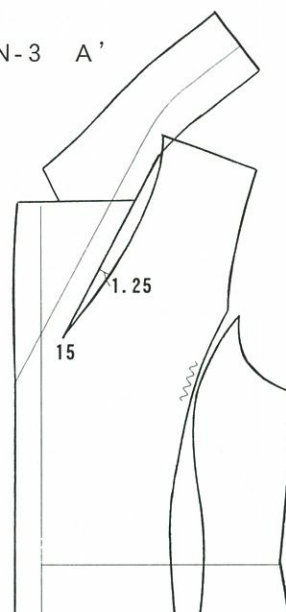
デザインN-3  
基本型トワル



③分類別パターン及びトワルの作成  
（製図－13～16）

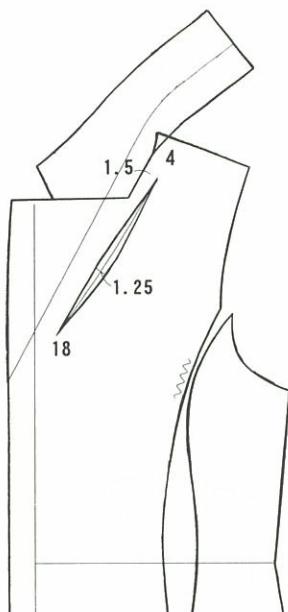
製図－13

デザインN-3 A'



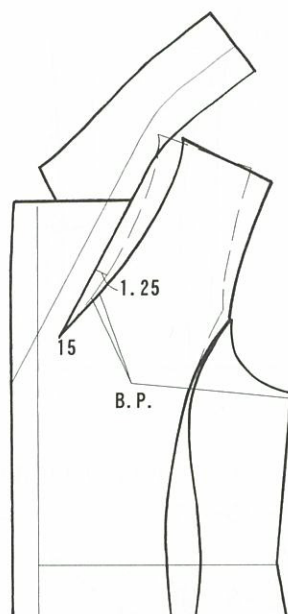
製図—14

デザインN-3 B'



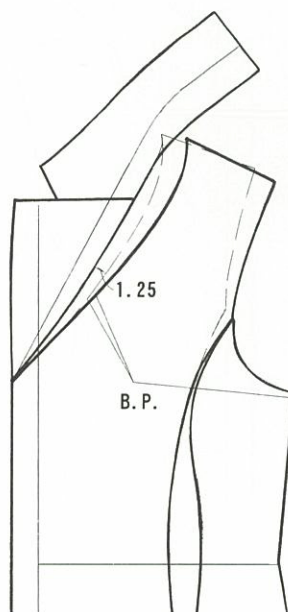
製図—15

デザインN-3 C'



製図—16

デザインN-3  
C'の切替



## 〔2〕方法

①、②、③を基本デザインと同じ方法で行なった。

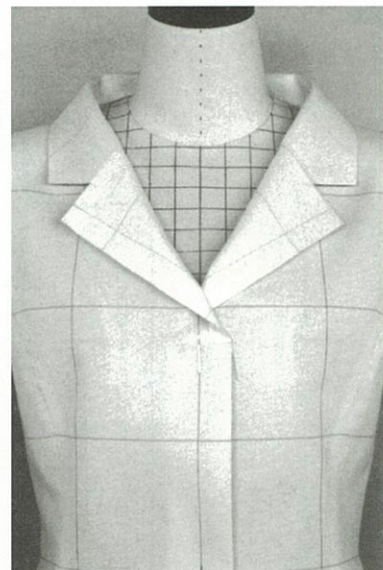
## 〔3〕結果

①折り山のデザインラインの視覚的形狀観察

写真—23

### 基本型

首から大きく離れる。首回りで回り込むカーブと、それ以降折り先へ向かう直線のラインとのつながりは不自然で違和感がある。



写真—24

### A'

基本型に較べ、首回りのカーブとその後の折り先へ向かうラインのつながりがよく、自然なカーブを描いている。

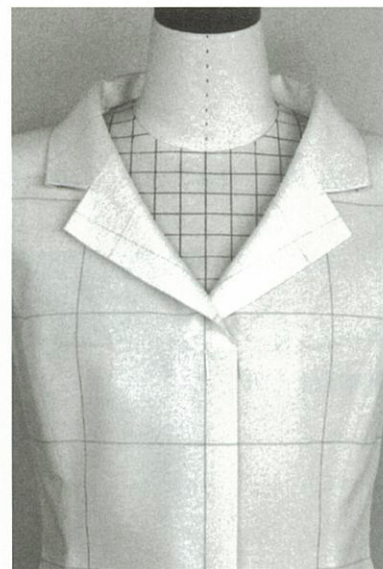




写真-25

B'

首回りからのラインの上部が直線的でしまり、張りが感じられる。

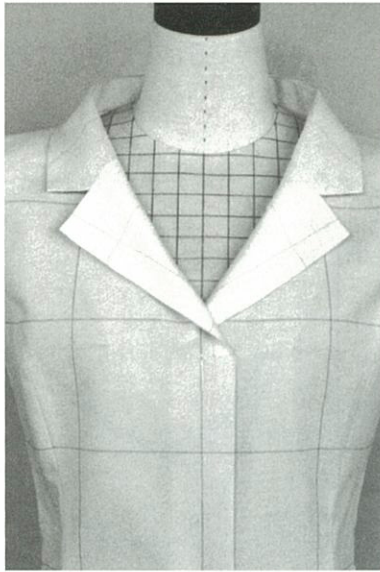


写真-26

C'

A'と近いラインだが、衿や身頃の落ち着きに不安定さがある。

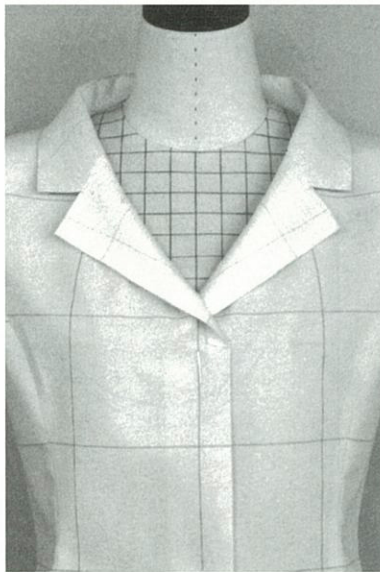
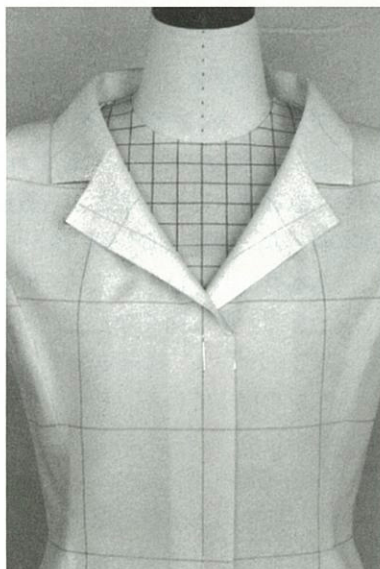


写真-27

C'-切替

首回りのカーブとその後のカーブとのつながりや全体的なバランスは、上記4例より自然で落ち着いている。おさまりがよい。



## ②折り山のデザインラインの分類別比較検討

・測定値

表-6 [デザインN-3] 首から折り山までの距離  
(単位cm)

デN-3 基	デN-3 A'	デN-3 B'	デN-3 C'	デN-3 C'-切
3.83	3.67	4.13	4.07	3.83

※表中の〈デN-3基〉はデザインN-3—基本型を表す。  
他も同様の表示とする。

### 基本型・A'・B'・C' (図-25)

基本型は口〜へ間は直線で、それ以降わずかにカーブしている。

A'は基本型より外側にカーブしている。基本型より一番離れているのは、ホで0.5cmである。

B'は口〜トにかけて、広い範囲で基本型より外側へ平行に膨らみ、上下でカーブしている。離れている距離は二が最大で、0.55cmである。

C'はA'・B'よりさらに外側にカーブしている。一番離れている位置はハ〜ヘで0.65cmである。

### C'・C'-切替 (図-26)

C'-切替は口〜トまでC'の内側にほぼ直線を取り、ト以降外側に膨らんだカーブとなる。左右のデザインラインの交差位置付近が最もカーブする。

図-25 デN-3—基・デN-3—A'・デN-3—B'・デN-3—C'

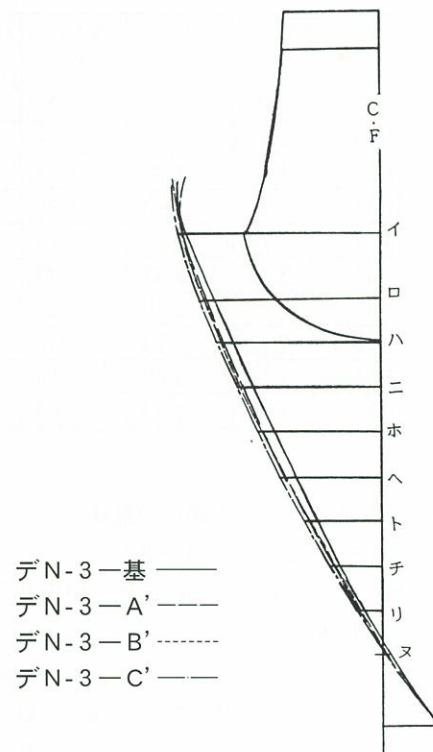
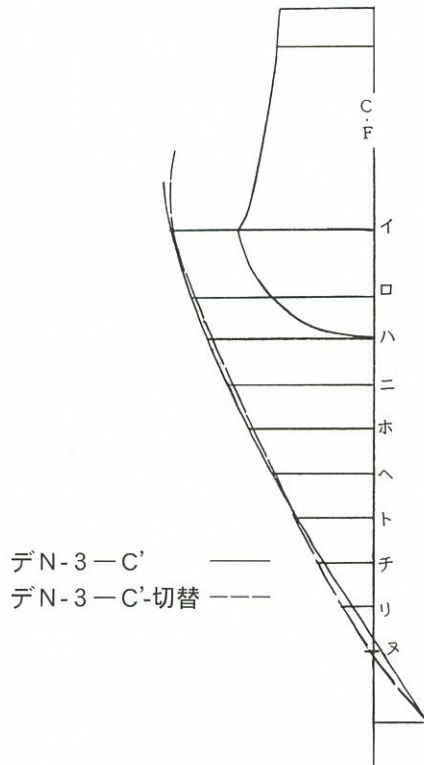


図-26 デN-3-C'・デN-3-C'-切替



③折り山のデザインラインの立体的形状の比較検討

・測定値

表-7 [デザインN-3] ボディから折り山までの高さの測定値  
(単位cm)

	デN-3 基	デN-3 A'	デN-3 B'	デN-3 C'	デN-3 C'-切
イ	2.22	2.20	2.45	2.35	2.18
ロ	1.50	1.87	1.97	1.92	1.80
ハ	1.28	1.75	1.80	1.83	1.72
ニ	1.33	1.93	1.93	1.90	1.83
ホ	1.47	2.17	2.22	2.10	2.02
ヘ	1.68	2.33	2.33	2.22	2.13
ト	1.83	2.37	2.32	2.25	2.22
チ	1.95	2.37	2.23	2.32	2.25
リ	1.95	2.18	2.07	2.13	2.17
ヌ	1.73	1.93	1.73	1.90	1.98

・折り山のデザインラインの起伏の推移

基本型・A'・B'・C' (グラフ-8)

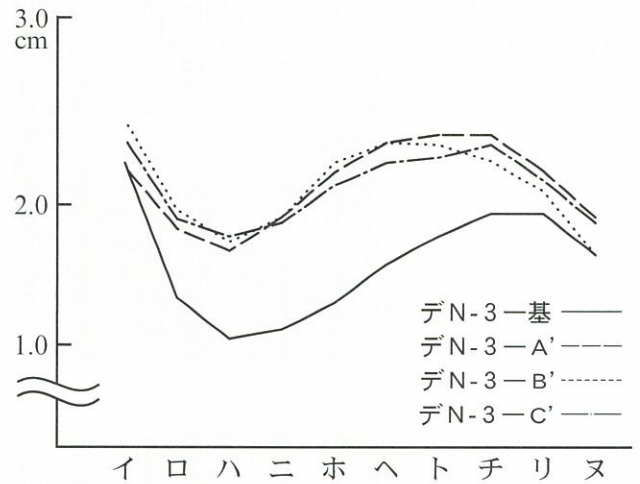
基本型はイが最高値で、最低値はハである。その後ピークのリに向かって上昇していく。

A'・B'・C'は共に同じようなラインで高さの程度も同じくらいである。基本型との共通点は、最低値がハであることだが、ハの高さにおいては基本型より0.5cm前後高い位置に留まっている。

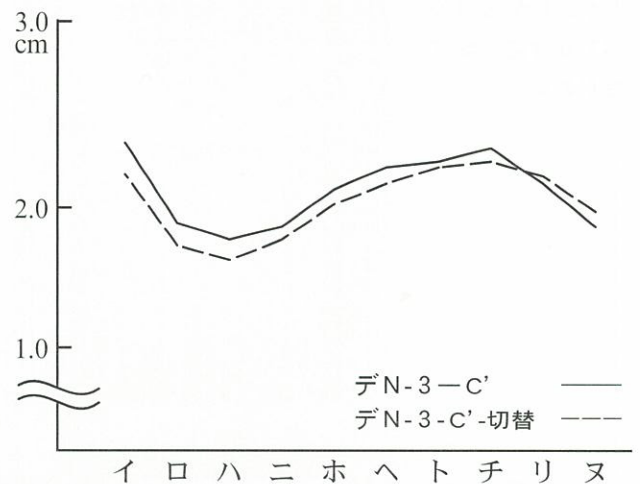
C'・C'-切替 (グラフ-9)

C'-切替の方が全体的に若干低い、ほぼ同じラインで推移している。

グラフ-8 デN-3-基・デN-3-A'・デN-3-B'・デN-3-C'



グラフ-9 デN-3-C'・デN-3-C'-切替



・折り山のデザインラインの起伏の推移

デザインN-3では、ボディ上の測定場所が基本デザイン・デザインN-1ともずれる。ずれた位置を図の中に点線でしるし、そこから数値をとった。

基本型・A'・B'・C' (図-27)

基本型はロ・ハ・ニで低く押さえられ、それ以降のホ・ヘで一段と高くなっている。

A'・B'・C'は基本型では低かったロ・ハ・ニでも高さを保っている。ラインの流れで見ると、ヘが一番高い。

C'・C'-切替 (図-28)

C'-切替の方が若干低い、二者がほぼ平行したラインである。リで交差している。



図-27 デN-3-基・デN-3-A'・デN-3-B'・デN-3-C'

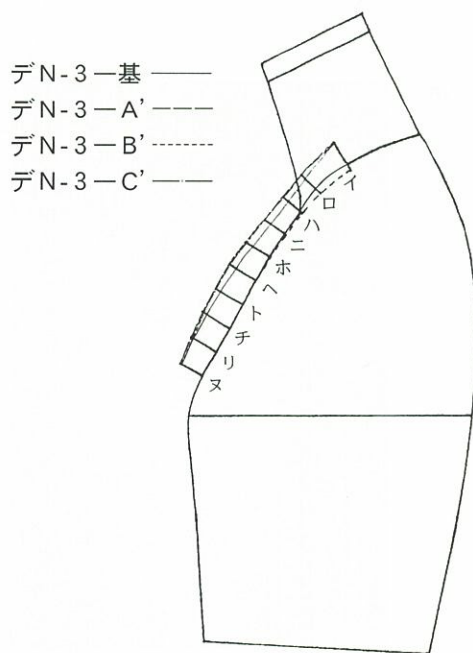
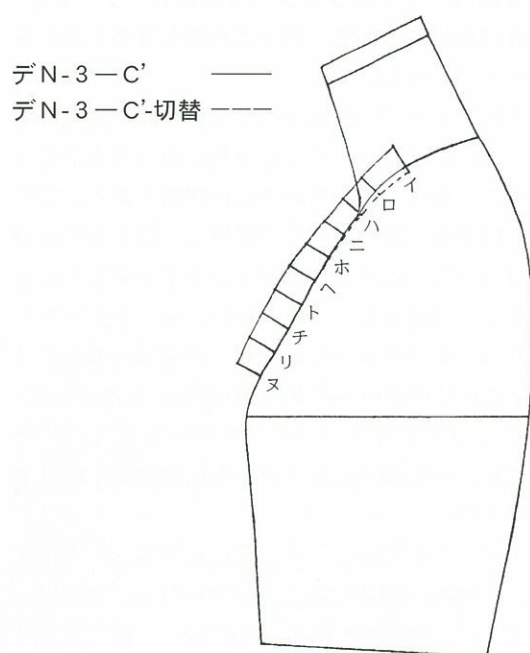


図-28 デN-3-C'・デN-3-C'切替



### Ⅲ Ⅱ、2 実験、〔3〕結果①②③からの考察

#### 〔1〕【基本デザイン】

今回の実験では、折り先の位置が上がりデザインラインが短くなったことで、ダーツの長さや分量が周辺の形状にどう影響を及ぼすかに注目した。

前回のトワール写真『杉野女子大学・杉野女子大学短期大学部紀要』Vol.35 p.13 (1998) を見ると首回りにはゆとりはほとんどないが、今回は基本デザインにおいても、この部分にゆとりが生じた（イの位置で首から折り山までの距離を測定した結果、0.62cm 離れている）。これについては、折り先をバストラインの位置に設定したことが関係している。

つまりバストラインより上部にカラー及びラベルが収まることで、テラーカラー全体が胸の高さによる影響を受けにくい。従ってラベルは胸の高さに引かれることなくふんわり折り返るので、カラー自体もゆったりと落ち着き、首回りにゆとりが出てくる。この現象は、テラーカラーにおける折り先の位置が周辺の形状に及ぼす基礎的な影響をはっきりあらわしている。

#### ・基本型について

前回の実験結果をほぼ踏襲する形になっている。

実験①②によれば、折り山のデザインラインは直線である。実験③の図を見ると、折り山のデザインラインの高さは、イ～ハにかけてはボディのラインに準じたカー

ブをとり、その後はまっすぐにリ（左身頃との重なり位置）に向かって高くなっていく。

#### ・A・B・CとA'・B'・C'について

ダーツの書き出し位置の違いからくる形状を比較してみた。

実験①②において2つのグループの間には、首回りのゆとりには差が見られる。A・B・CよりA'・B'・C'の方にゆとりが認められる。A・B・Cは首付近でラインがいったん内寄りとなり、その下からはカーブとなる。それに対し、A'・B'・C'は首付近から外に広がり、そのまま下のカーブにつながる。より自然な感じを受ける。

実験③の図においても、前者のラインは程度の差はあってもそれぞれ凹凸が認められるのに対し、後者はなだらかなラインになっている。前者のグループのダーツは後者のそれに比べ、同じダーツ分量でも折り山のデザインラインに与える影響が大きい。後者はダーツの書き出し位置が高く長さが確保されるため、形状に及ぼす影響が緩和されることが、今回も確認された。

#### ・A・A'、C・C'について

実験②においてA・A'間の差と、C・C'間の差は同じあらわれ方を呈した。カーブの度合いはC・C'の方が大きい。

C・C'はA・A'とダーツの形が同じなので、同様な結果になるのは当然といえる。但しC・C'は、サイドダーツをたたんで展開していることにより、身頃にゆ



とりが出る。それについて前回の結果は、C・C'の分類では折り山のデザインラインが程よいカーブを描き、そのゆとりが生じることで、印象にも落ち着きが感じられるというものだった。

しかし今回、C・C'にあらわれる形状は、前回とは異なっている。デザインラインは自然なカーブを描くものの、ラベル下の身頃の落ち着きには問題がある。実験①で受ける印象も、浮いた感じを受ける。折り先の位置を高く設定したことにより、デザインラインが短くなりダーツの長さも短縮される。そのため、サイドダーツから展開した切り開き分のいせこみが十分身頃に吸収されず、ボディになじまない(写真-28 参照)。したがって、首回りのゆとりがデザインラインのカーブとつながって、大きく広がった胸元のあきがさらに浮いた印象を強調する結果となる。

実験③のグラフを見ると、AとCは口からピークのホへ上昇し、その後しばらく高さを保ちながら、リへゆっくり下りていく。この一連の動きは二者同様であるが、Cの方がピークが高く極端である。A'・C'については、高低差がA・Cより縮まり、③の図で見てもなだらかなカーブとなる。C'の方が一貫して高く、Aと同じラインの動きを示していて、さらに高低差が小さい(表-8 参照)。(ホ〜チまではほぼ直線)

写真-28

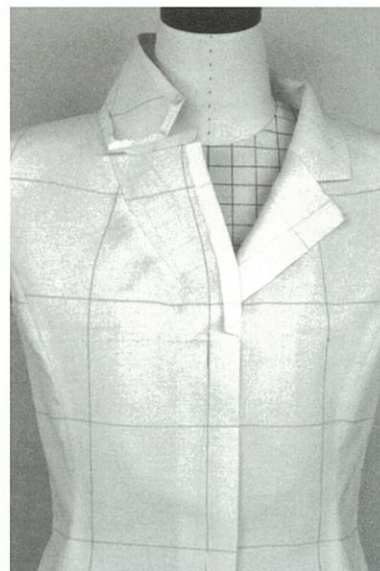


表-8 [基本デザイン] 折り山の起伏の高低差比較

(単位cm)

	基本デー基	基本デーA	基本デーA'	基本デーB	基本デーB'	基本デーC	基本デーC'
リを除く最低位置	ハ	ロ	ロ	ロ	ロ	ロ	ロ
イを除く最高位置	リ	ヘ	ヘ	ヘ	ヘ	ホ	ヘ・ト・チ
差	0.50	0.62	0.47	0.58	0.58	0.98	0.37

#### ・B・B'について

B・B'のダーツのとり方は、A・A'、C・C'と違い、身頃に独立した形で存在する。そのため、他の2分類とは違った形があらわれる。

B'はダーツの書き出しが肩線から4cm下りた位置にあるため、首回りのゆとりがA'・C'よりも少ない。

実験③のグラフで見ると一番高いラインで推移しているが、C'のように浮いた印象はない。イの位置から一貫して高く、しかも首回りがしまっていることで、折り山が一段と起き上がった感じに作られている。

#### 〔2〕【デザインN-1】

##### ・基本型について

イの位置の首から折り山までの距離は1.6cmである。基本デザインではこれが0.62cmであったので、その差約1cmである。

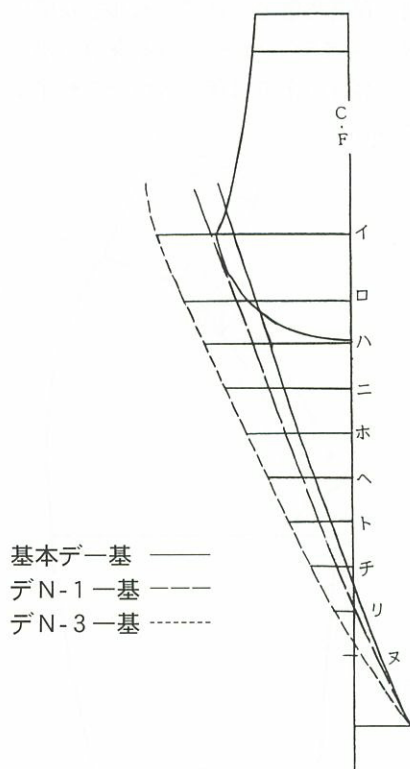
実験①②では、折り山のデザインラインはラベル部分は直線であるが、首回りとのつながりがカラーとラベルの接ぎ位置で内側に曲がっている。基本デザインでもわずかにその傾向は見られ、また次のデザインN-3ではよりはっきりと観察された。(図-29参照)

テーラーカラーは、カラーがラベルと共に折り山線で折り返され、デザインラインとして一本化されるが、折り山線上に働く力はカラーとラベルでは方向が異なるため、その境目においてのつながりに無理がかかりやすい。N.P.から衿付け線が離れるほど、首回りのカーブが強

くなり、ラベル部分の直線的な折り山線とうまくつながりにくくなってくると考えられる。また、もう1つの理由として後ろ衿付け線からのつながりによって形状は左右される。理由の後者については別項でデザインN-3と共に後述することとする。

実験③では、基本デザインより高めの値になっているが、起伏はおおむね似た推移を示した。最低位置は基本デザインのハから二に移行し、ロ～二間で基本デザインと反対のカーブを描く。これは前述の理由と同じと考えてよい。(グラフー10、図-30参照)

図-29 基本デー基・デN-1ー基・デN-3ー基



グラフー10 基本デー基、デN-1ー基、デN-3ー基

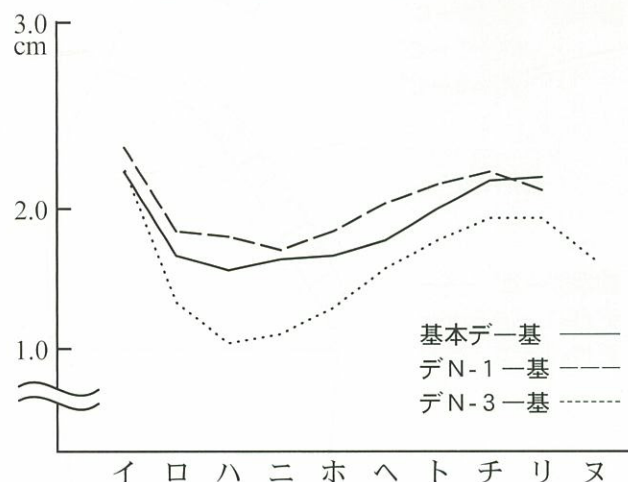
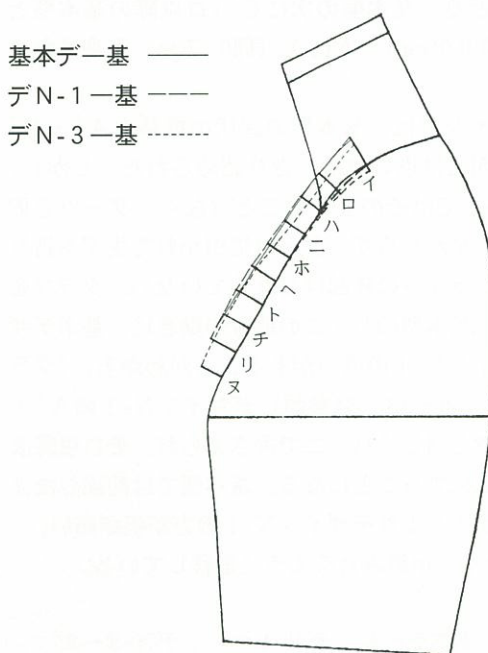


図-30 基本デー基・デN-1ー基・デN-3ー基



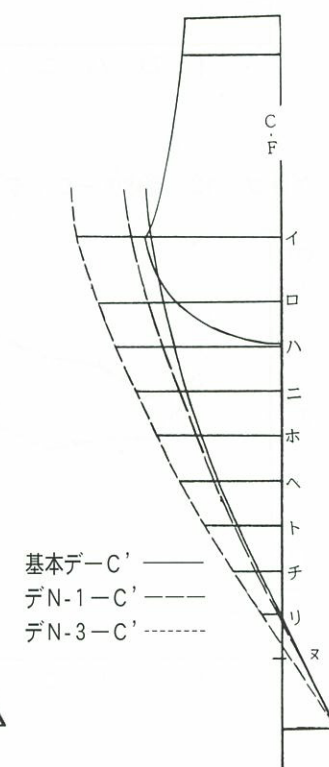
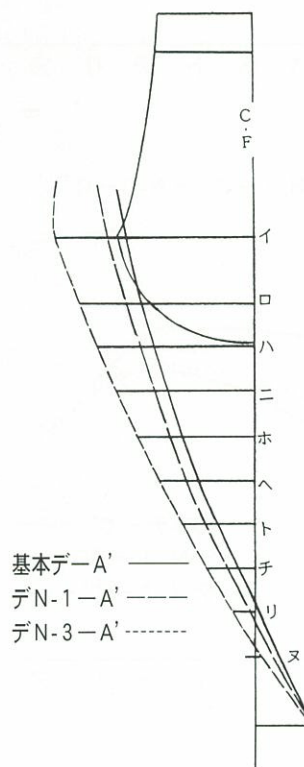
・A'・C'について

実験①では、折り山のデザインラインは基本型で見た固い表情から、全体にカーブで胸元を囲む優しい印象に変わっているのがよくわかる。

基本型で見られたカラーとラベルの接ぎ位置付近での曲がり現象は、ダーツを取って折り山のデザインラインを変化させたことで解消している。(図-31, 32参照)

図-31 基本デーA'・  
デN-1-A'・デN-3-A'

図-32 基本デーC'・  
デN-1-C'・デN-3-C'



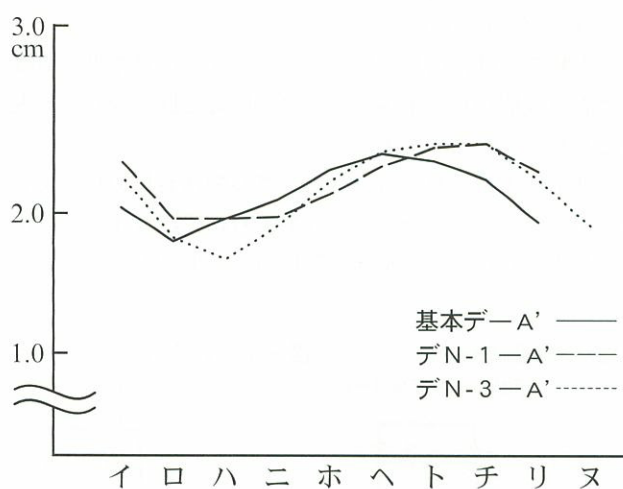


実験③では、A'・C'は基本型と大変よく似た起伏の推移をたどる。基本型の次にC'(口以降の基本型との平均値の差0.06cm)、次にA'(同0.17cm)と高くなっていく。

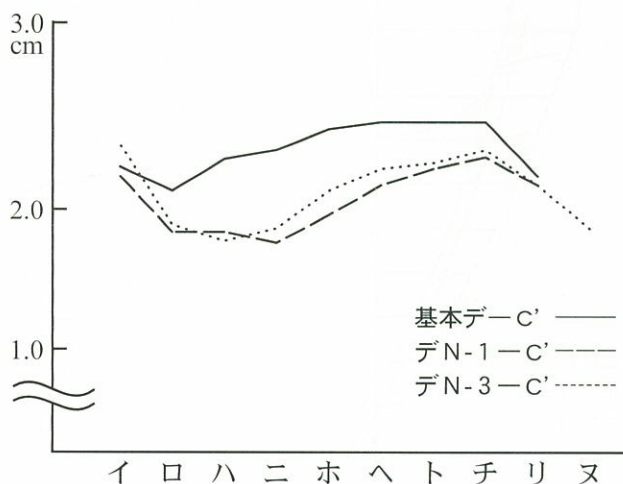
基本デザインでは、基本型の起伏の推移とA'・C'のそれとの間には違いがはっきり認められた。しかし、デザインN-1ではそのようなことはなく、ダーツを取っているにもかかわらず、ダーツに引かれて生ずる折り山のデザインラインの隆起は目立っていない。グラフをよく見ると、基本型のハ・ニの部分の動きに、基本デザインとデザインN-1の違いがあることがわかる。(グラフー11, 12、図-33, 34参照) デザインN-1のA'・C'は基本型と同じくハ・ニで押さえられ、それ以降ようやく上昇に転ずることになる。基本型では前述したように基本デザインよりデザインN-1の方が値が高い。

A'は、ラインが絡み合うように推移している。

グラフー11 基本デーA'、デN-1-A'、デN-3-A'



グラフー12 基本デーC'、デN-1-C'、デN-3-C'



C'は、デザインN-1の方が全般に低い。

基本デザインでは、A'よりC'の方が高いのに、デザインN-1はA'の方が高い逆転現象を示している。

基本デザインでは、C'はサイドダーツの展開による身頃の落ち着きの悪さが手伝い、浮いた状態となった。デザインN-1ではなぜそうならず、逆に低く押さえられたのだろうか。

衿付け線がN.P.から1cm離れている。ボディの首ぐりから続く肩のラインを観察すると、肩線は首の近く1~2cmでわずかにそり上がり、首の付け根へつながっている。肩線の傾斜が首の付け根から少し離れて落ち着く位置に衿付け線が通ることで、身頃全体がボディになじみ、カラーの外回りが落ち着き、続くラベルも身頃に落ち着く。その結果、本来C'のもっている身頃のゆとりが効果をあらわし、高さの上では落ち着いたデザインラインとなると考えられる。

図-33 基本デーA'  
デN-1-A'  
デN-3-A'

基本デーA' —  
デN-1-A' ---  
デN-3-A' ···

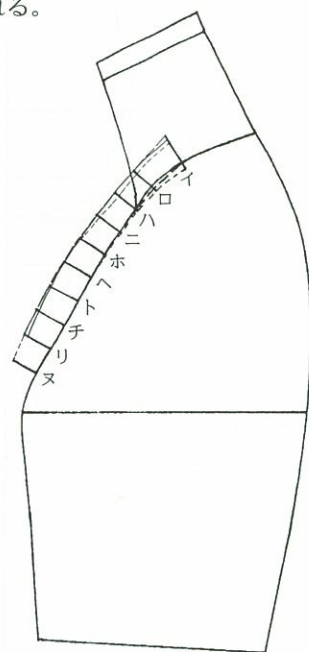
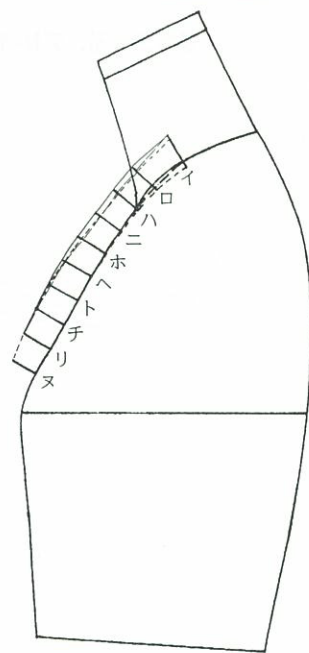


図-34 基本デーC'  
デN-1-C'  
デN-3-C'

基本デーC' —  
デN-1-C' ---  
デN-3-C' ···





# ・ B' について

実験①②では首付近のデザインラインは直線的で首からの離れ方が少なく、続くカーブはホ・ヘ付近で大きく角度をつけ、折り先へ向かう。印象は縦長でしまった感じである。(図-35参照)

実験③では、A'・C'とは対照的に起伏がはっきりとあらわれる(表-9参照)。前段で触れたように、身頃がボディ上に安定している状態がB'のダーツの持つ特徴を際だたせている。B'はダーツが独立して存在している。しかもA'・C'に比べ、折り山線からダーツの距離が遠い位置にあるため、折り山線が引かれて、起き上がるときの高さを更に増幅すると考えられる。

図-35 基本デ-B'、デN-1-B'、デN-3-B'

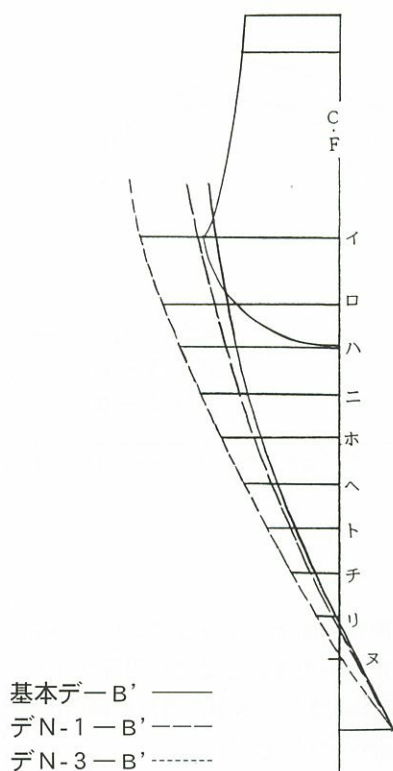


表-9 [デザインN-1] 折り山の起伏の高低差比較 (単位cm)

	デN-1-基	デN-1-A'	デN-1-B'	デN-1-C'
リを除く最低位置	ニ	ロ・ハ	ロ	ニ
イを除く最高位置	チ	チ	ヘ	チ
差	0.42	0.40	0.63	0.47

# [3] 【デザインN-3】

## ・ 基本型について

イの位置での首から折り山までの距離は、3.83cmである。基本デザインとの差は約3.2cmである。

実験①では、折り山のデザインラインはデザインN-1に見られたようにラペル部分は直線だが、カラーとラペルの接ぎ位置で首回りからのカーブラインとの接点が内側に曲がって見える。これについてはデザインN-1ですでに述べた。

実験③-グラフでは、イは基本デザインと同じ高さだが、ハを最低値としてぐっと低くなり、差が大きくなる。その後上昇に転じ、差を縮めてゆく。

実験③-図で見ると、ロ・ハ・ニでの低さが顕著であり、今まで見てきた基本型における折り山の高さの安定性から逸脱している。デザインN-3では衿腰の高さを低く設定したこと(他は2.5cm→2cm)で、衿付け線から折り山線までの間が短くなりロ・ハ・ニの周辺で立ち上がり方が不足するためと思われる。

## ・ A'・B'・C'について

首回りでの大きく回り込むカーブから折り先へ向かうラインが自然につながり、古典的で女らしい雰囲気を出している。基本型の形状はデザインの的に身頃とマッチせず、不完全な印象を拭えなかった。衿付け線がN.P.から離れているカラーの場合、デザインラインはカーブしている方が望ましいといえる。

実験③では、A'・B'・C'がほとんど同じくらいの高さで基本型から離れ、高止まりしている。仔細に見ると、A'・C'は同じ起伏で推移しているが、C'の方が高低差は少ない(表-10参照)。基本型はピークがチ・リであるのに対し、A'・C'とも少し手前でヘ・ト・チに分散している。

B'はヘがピークであり、やはりA'・C'とは動きが違う。

A'・B'・C'がほとんど同じくらいの高さにまとまったというのは、今までになかった現象である。基本デザイン・デザインN-1ではA'・C'より一段と高かったB'の値が同じレベルまで下がってきた。(グラフ13、図-36参照) デザインN-3では折り山線の傾斜が強くなりバイヤスの地の目にとられているため形状がなじみやすく、ダーツにとられる反動が緩和されて各分類間の高さの差が小さくなるのだと考えられる。

表ー10 [デザインN-3] 折り山の起伏の高低差比較

(単位cm)

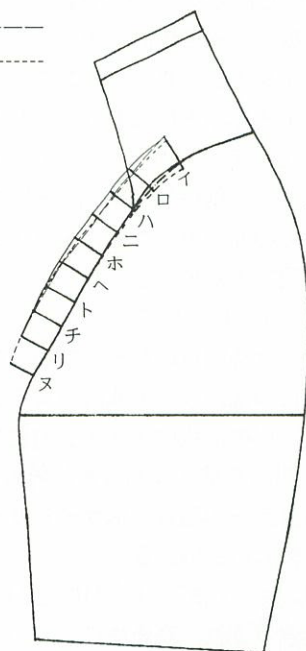
	デN-3-基	デN-3-A'	デN-3-B'	デN-3-C'	デN-3-C'-切
ヌを除く最低位置	ハ	ハ	ヌ	ハ	ハ
イを除く最高位置	イ	ト・チ	イ	イ	チ
差	0.67	0.62	0.53	0.48	0.53

図ー36 基本デーB'、デN-1-B'、デN-3-B'

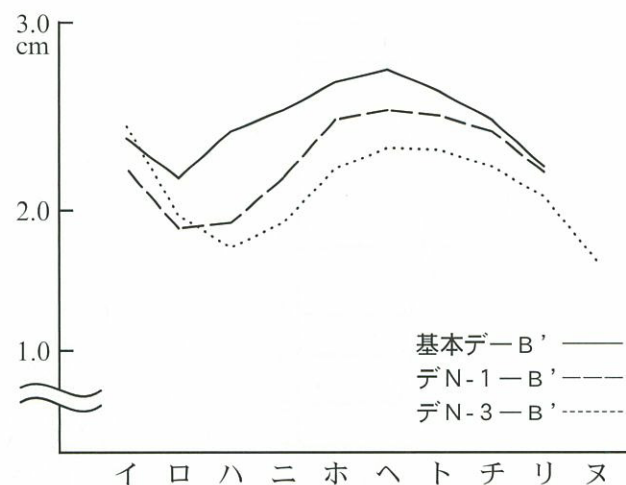
基本デーB' ———

デN-1-B' - - - -

デN-3-B' ·····



グラフー13 基本デーB'、デN-1-B'、デN-3-B'



## ・C'・C'-切替について

実験①②では、ラベル奥で切り替えたものは、折り山のデザインラインがなめらかで伸びのあるラインになる。折り先までダーツが伸びるため、ダーツ止まりに生じる反動がない。C'との比較では、折り先付近でのカーブが大きく外側を通っている。

実験③で見ると、全体にわたっての高低差にC'との違いは特に見られない。またピークから先の落ち込みがあまりなく、その部分で高さが保たれることがわかる。切り替えが折り山のデザインラインに安定をもたらしているといえることができる。

## 〔4〕後ろ衿付け線と折り山のデザインラインについて

服の構造において、カラーのすわりは大変重要である。これを決定する要因はいくつかあるが、衿付け線の位置やつながり、大事なポイントである。

前項で触れたが、デザインN-1とデザインN-3の基本型を作成する過程で、折り山のデザインラインに大きく影響した事柄を付記しておきたい。

後ろ身頃の衿付け線の高さが違うトワルを作成し比較した。



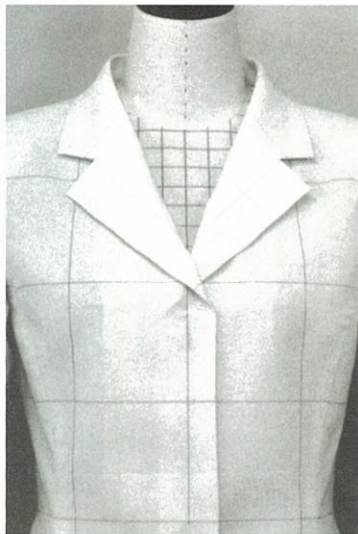
【デザインN-1】

- ・後衿付け線を0.5cm低く設定したトワル（原型の衿ぐり線と同じ高さ）（写真－29・30）

写真－29

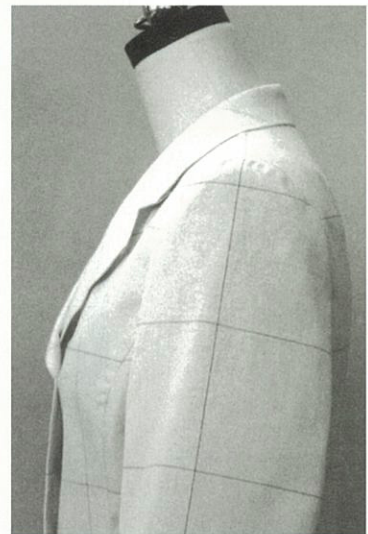
基本型  
修正前

正 面



写真－30

横

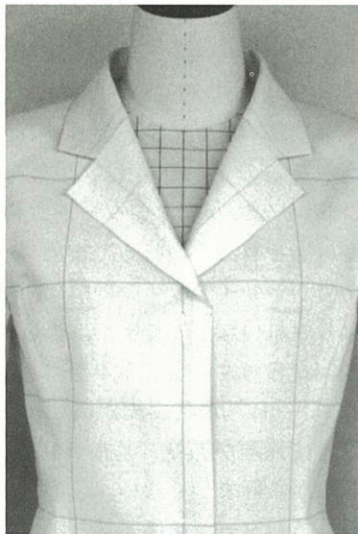


- ・本文で使用したトワル（後ろ衿付け線を基本デザインと同じ高さになっている）（写真－31・32）

写真－31

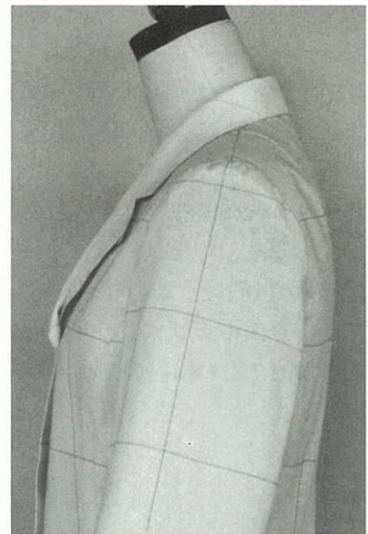
基本型  
修正後

正 面



写真－32

横



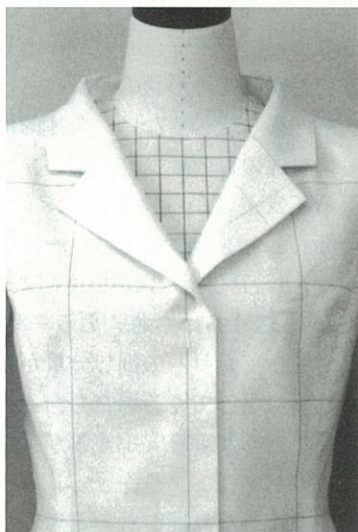
【デザインN-3】

- ・後衿付け線を原型より2cm低く設定したトワル（写真－33・34）

写真－33

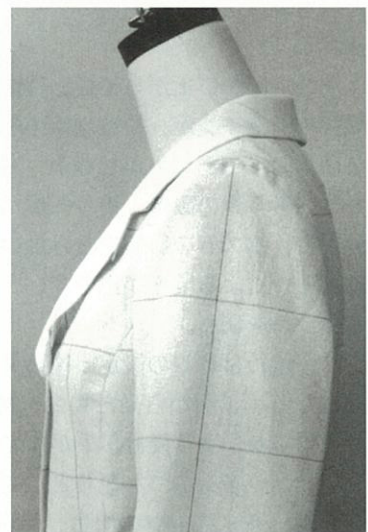
基本型  
修正前

正 面



写真－34

横



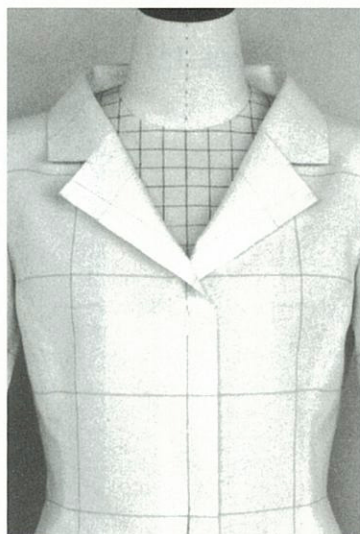


・本文で使したトワル（後ろ衿付け線はかなり浅く描かれる）（写真－35・36）

写真－35

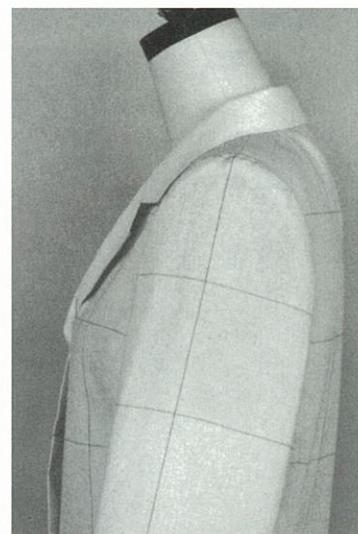
基本型  
修正後

正 面



写真－36

横



写真で確認されるように後衿付け線の低いトワルでは、折り山のデザインラインの曲がり方が強く出る（写真－29・33参照）。カラーがいわゆる抜き衣紋状態で後ろに引かれ（写真－30・34参照）、それに伴って折り山のデザインラインは首回りでカーブがより強くなるので、直線的なラベル部分との接点ではこのような現象になると思われる。特にデザインN-3は、前から観察した際、カラーが首の後ろで落ち込んで見え、カラーのあり方としても望ましくない。

実験の目的は、すわりの安定したカラーを設定した上で、折り山のデザインラインの観察をすることである。この目的に沿った検討の結果、後者のトワルを本実験で採用した。

#### IV まとめ

実験①②③をとおり、基本デザイン、デザインN-1、デザインN-3と主に衿付け線のN.P.からの距離の違いという観点から、折り山のデザインラインを観察してきた。

そこで浮かび上がってきた特徴を挙げ、ダーツの各分類別のパターンが、衿付け線の違いからくるデザインの多様化の中でどう生かせるか、方向性を探った。

1) 折り先の設定：折り先がバストより上の位置にある場合、バストの影響を受けないので、デザインラインにダーツによる変化が出やすい。また、ふわっと折り返るカラーを創る。

2) 後衿付け線の設定：後衿付け線を下げると抜き衣紋になる。正面から見た場合、衿付け線がN.P.から離れるにつれ、より後衿が下がって見え（写真－33参照）、デザインラインのつながりとしては美しくない。最近のテーラード・スーツの場合、衿付け線はN.P.から離れ

ても、抜き衣紋にしないデザインなので後衿付け線は原型よりあまり下げず、浅いラインを作ることが重要だ。また抜き衣紋にするデザインもあるが、その場合は、フラットカラーもしくはショールカラーが望ましいと思う。

3) 基本デザインとデザインN-1の比較：N.P.から離れるこの1cmの差は、思った以上に大きい。デザインN-1の方がスタンダードな衿付け線より形状の違いがはっきりあらわれる。またダーツをとってカーブさせた方がデザインラインのつながりもよく、基本デザインよりきれいな丸みを描く。最近のテーラード・スーツの傾向から考えると、基本デザインのA'、デザインN-1のA'・B'が利用度が高いだろう。C'は身頃の落ち着きに無理があり、基本デザインのB'はデザイン的な観点から好ましくない。首のあたりのゆとりの違いを考慮してパターンを選ぶことが大切である。またこのなかでは、現在トレンドの首からちょっと離れたフェミニンなテーラーカラーにはA'が最適である。

4) デザインN-3について：首周りから大きく離れるこの形は、テーラーカラーとしては特殊である。ダーツの分類間での形状の差異はさほど見られなくなり、印象もあまり変わらない。全体的には、大きくあいた衿ぐりは女性の首の細さを強調し、肩の幅が狭くなることによる不安定さから〈危うい・華奢な〉感じを創り出す。女性らしさを強調したカラーといえる。

5) N.P.から3cm以上離れる場合：衿付け線がN.P.から離れるにつれ、カラー外回り寸法が足りなくなる。従ってカラーの倒し分量が多くなり、更に切り開きが必要になってくる場合もある。ダーツではなく切り替えにした方がより安定するが、むしろテーラーカラーとしてのパターンよりショールカラーとしてのパターンへ指向する方が無理がないと思われる。



## V 最後に

昨年と2回にわたって、折り山のデザインラインに及ぼすダーツの影響について考察してきた。テーラーカラーは普遍性を持ち、生き続けている。そのバリエーションは社会の変革に伴って変化する人々の生き方を反映し、無限の広がりを見せてくれる。その時々々のファッションに即応し、ニュアンスを的確に伝えるパターンを目指すには、まだまだ研究の余地があると思われる。

これからも常に変化を続けるファッション環境に敏感に反応し、研究対象を開拓してゆきたい。

### 注

- (1) 筒井京子・石垣和子「テーラード・スーツの研究 1・2 テーラード・スーツの歴史とその変遷について」『北海道女子短期大学研究紀要』第13号・15号 1980・1981  
森本貞子「日本服飾史上の紳士服〈背広上衣〉と婦人服〈テーラード・スーツの上衣〉の比較研究」『大阪私立短期大学協会研究報告集』第26集 1988

- (2) 山崎迪子「アパレル業界に於けるテーラード・ジャケットの傾向について」『京都文教短期大学研究紀要』第23集 1984  
鈴木妃美子・近藤トシエ・岡田陽子他「テーラード・ジャケットにおけるパターンメイキングと縫製の現状」『名古屋女子文化短期大学研究紀要』第22集 1996  
池田和子・佐藤真知子「服飾デザイナーのイメージ評価 テーラードスーツのスタイル画による」『文化女子大学研究紀要』第23集 1992

- (3) 高橋紀子他「接着芯地を用いたテーラーカラーの縫製方法の留意点」『聖霊女子短期大学紀要』第14号 1986  
田口和子「テーラードジャケットにおける衿1見返しと表衿のゆとり」『群馬女子短期大学紀要』第4号 1976  
高塚千恵子他「テーラード・ジャケットの製作能率的な縫製法」『文化女子大学研究紀要』第12集 1981  
山田敦子「テーラード・ジャケットの縫製工程に関する一考察」『名古屋女子文化短期大学研究紀要』第16集 1990

以上、縫製に関わる研究論文

多々見和子「編地接着芯地の基礎性能 テーラードジャケットへの適応性」『文化女子大学研究紀要』第19集 1988  
林 泰子他「表地の芯地の適合性に関する研究—テーラーカラーのラベルの形態について—」

『武庫川女子大学紀要』第27、28集 1980、1981  
高橋紀子他「テーラーカラーのラベルの形態安定性」『家政学雑誌』第22、25、28巻 1971、1974、1977

『聖霊女子短期大学紀要』第8、12号 1980、1984 重田美智子・古川栄子「不織布接着芯地の扱い方 テーラードカラーへの適用とその形態安定性について」『大阪教育大学紀要』第27巻 1978

以上、芯の適合性・扱い方に関わる研究論文

- (4) 田村和子「テーラーカラーの倒れ分について」『衣生活研究』Vol.2 No.9・10 衣生活研究会 1976  
小田明美「テーラードカラーに関する研究 特に衿巾の衿の倒し分の関係及び作図法について」『大阪樟蔭女子大学論集』第13号 1975
- (5) 森田裕子・吉川玲子・田原美津子「テーラーカラーにおける折り山のデザインラインとダーツの関係について」『杉野女子大学・杉野女子大学短期大学部紀要』Vol.35 1998
- (6) 注(5)と同書(17~26)

### 参考文献

フランソワ・ブーシェ『西洋服装史』日本語版監修 石山彰 文化出版局 1973  
丹野郁『服装の世界史』本編 白水社 1985  
青木英夫編者『服装史』酒井書店・育英堂 1987  
『近代日本服装史』昭和女子大学被服研究室 近代文化研究所 1971  
『幕末・明治・大正・昭和 服装で綴る 日本の風俗史』中央文化出版 1984

### 写真出典

『HAUTE COUTURE COLLECTIONS』(株)ギャップ ジャパン  
写真-4、8 '98春夏パリオートチュール・コレクション 66  
写真-3 '98~'99秋冬パリオートチュール・コレクション 104  
写真-7 1999春夏パリオートチュール・コレクション 74  
写真-2 1999春夏パリオートチュール・コレクション 302  
『COLLECTIONS』(株)ギャップ ジャパン  
写真-5 '98~'99秋冬パリオートチュール・コレクション パリ・ロンドン 211  
写真-6 '98~'99秋冬パリオートチュール・コレクション ニューヨーク・東京 15  
写真-1 '99春夏パリオートチュール・コレクション パリ・ロンドン 237